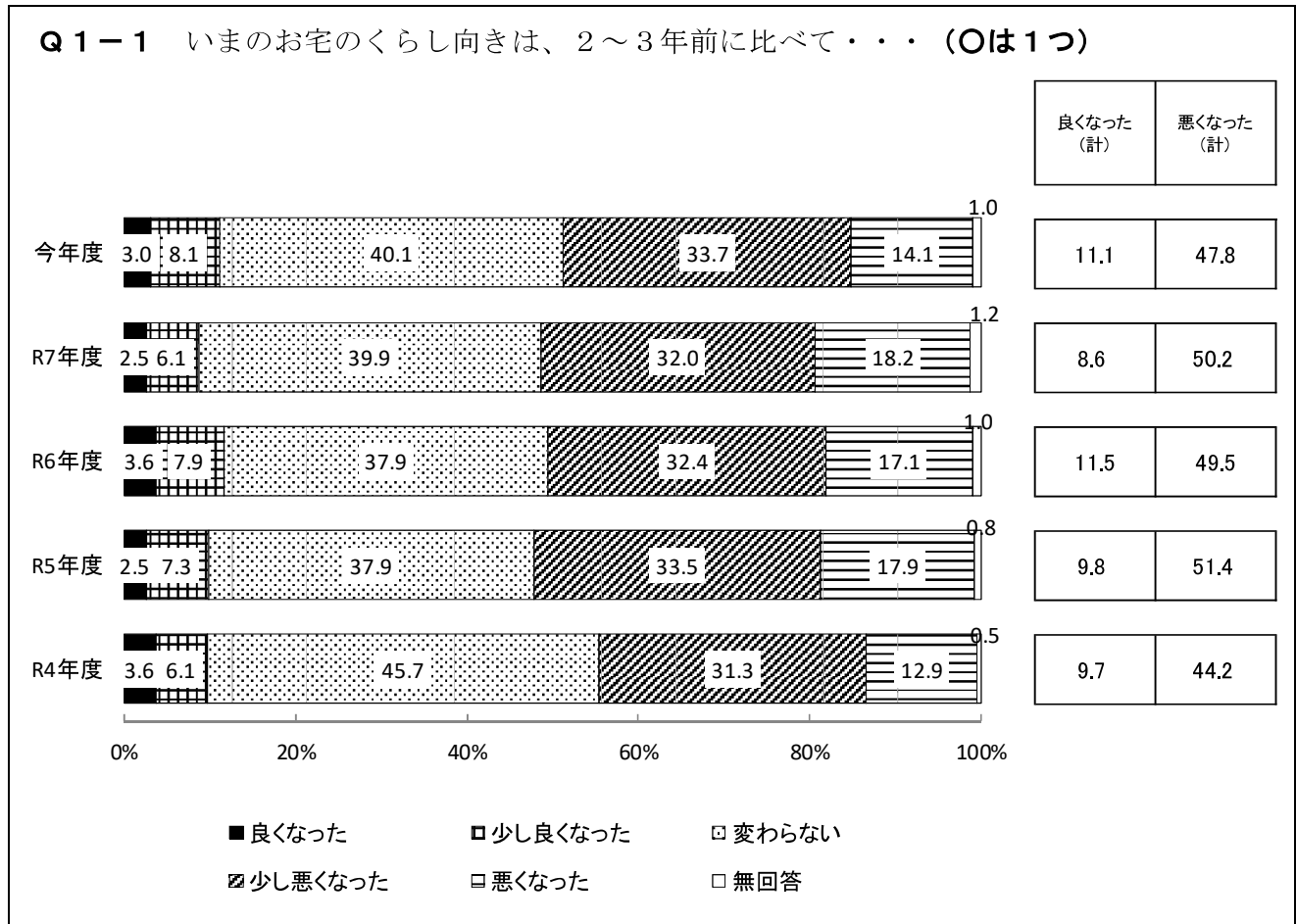


Ⅱ. 調査結果

1. 県民の生活実感

1-1. 暮らし向きの変化

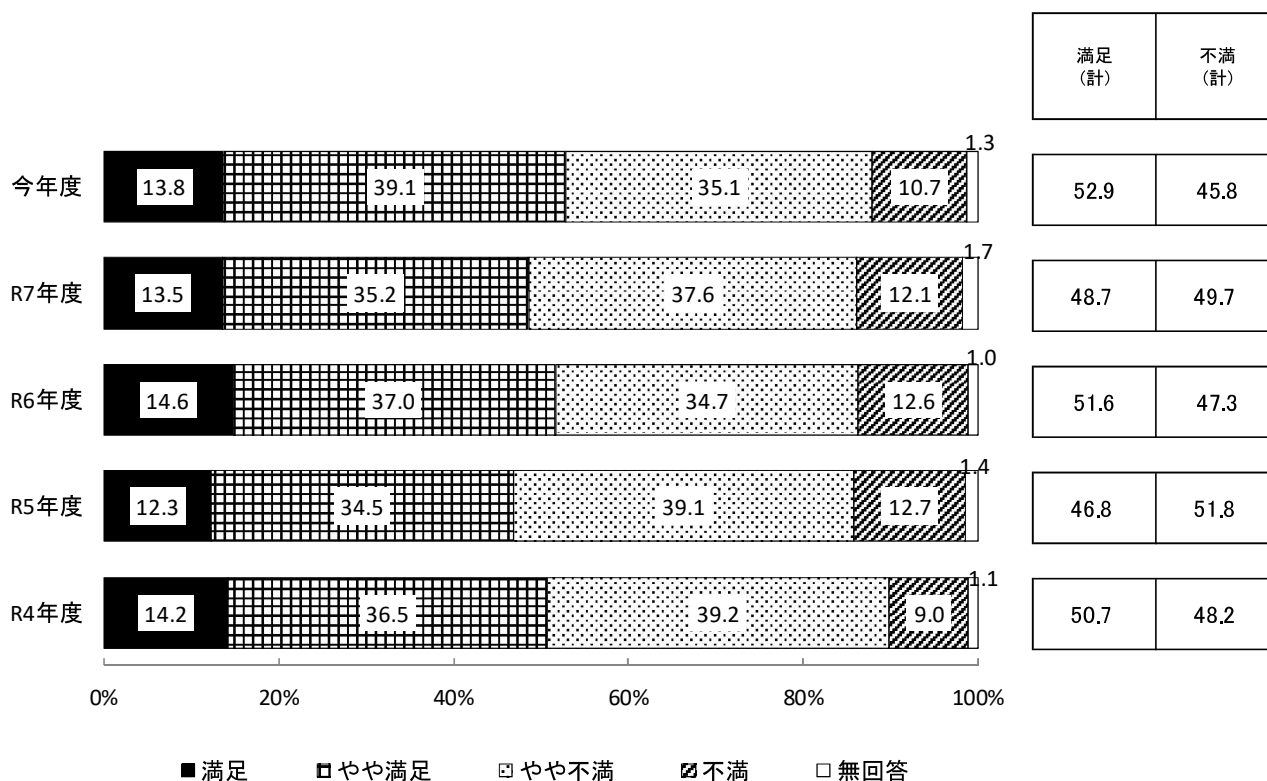


2～3年前に比べた暮らし向きは、「良くなった」と「少し良くなった」を合わせた『良くなった（計）』が11.1%、「悪くなった」と「少し悪くなった」を合わせた『悪くなった（計）』が47.8%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『良くなった（計）』が1割前後、『悪くなった（計）』は4割半ばから5割強の間で推移している。

1-2. 暮らしの満足度

Q 1-2 いまのお宅の暮らし向きにあなたは・・・（○は1つ）

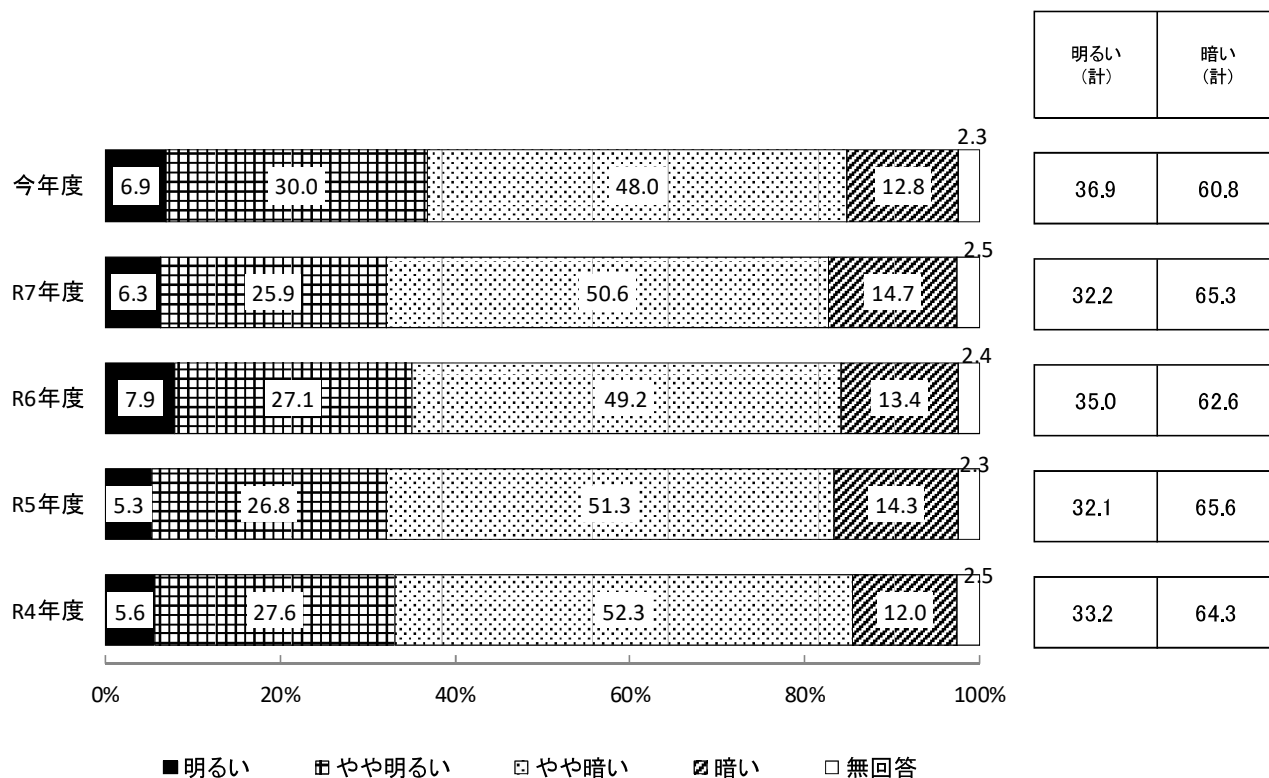


現在の暮らし向きに関する満足度について、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足（計）』が52.9%、「不満」と「やや不満」を合わせた『不満（計）』が45.8%となっている。

直近5年間の回答状況をみると、『満足（計）』、『不満（計）』ともに4割半ばから5割強の間で推移している。

1-3. 今後の生活の見通し

Q 1-3 これからの自宅の生活の見通しは・・・（○は1つ）



今後の生活の見通しについて、「明るい」と「やや明るい」を合わせた『明るい（計）』が36.9%、「暗い」と「やや暗い」を合わせた『暗い（計）』が60.8%となっている。

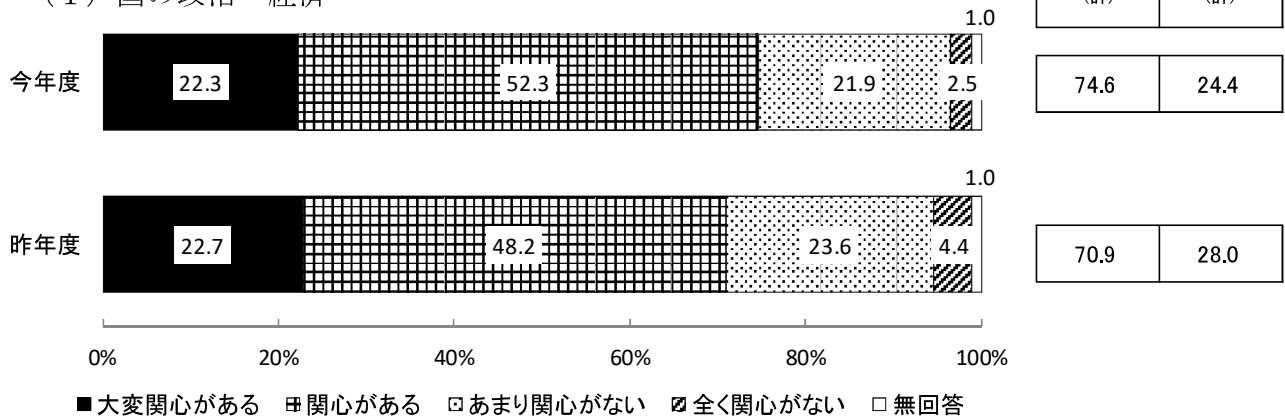
直近5年間の回答状況をみると、『明るい（計）』は3割強から3割半ば、『暗い（計）』は6割から6割半ばの間で推移している。

2. 政治や経済への関心

2-1. 国の政治・経済への関心

Q 2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(1) 国の政治・経済

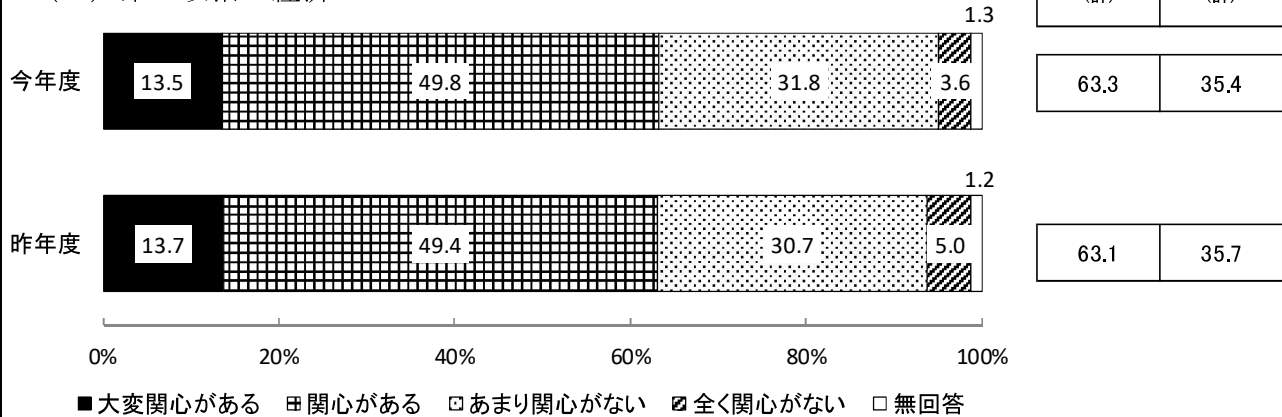


国の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が74.6%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が24.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある(計)』は3.7ポイント上昇、『関心がない(計)』は3.6ポイント低下している。

2-2. 県の政治・経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(2) 県の政治・経済

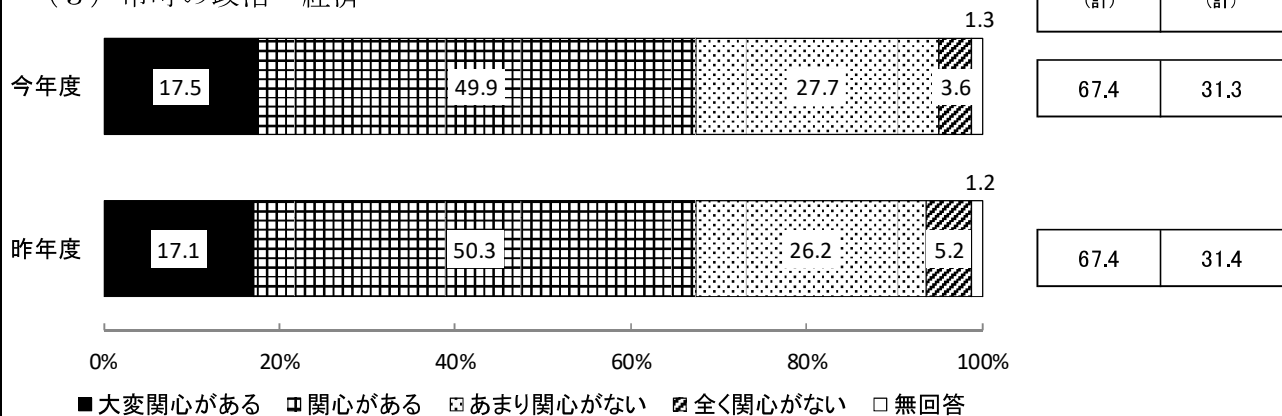


県の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が63.3%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が35.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

2-3. 市町の政治・経済への関心

Q2 あなたは、国や県、市町の政治・経済についてどの程度関心がありますか。
(○はそれぞれ1つ)

(3) 市町の政治・経済

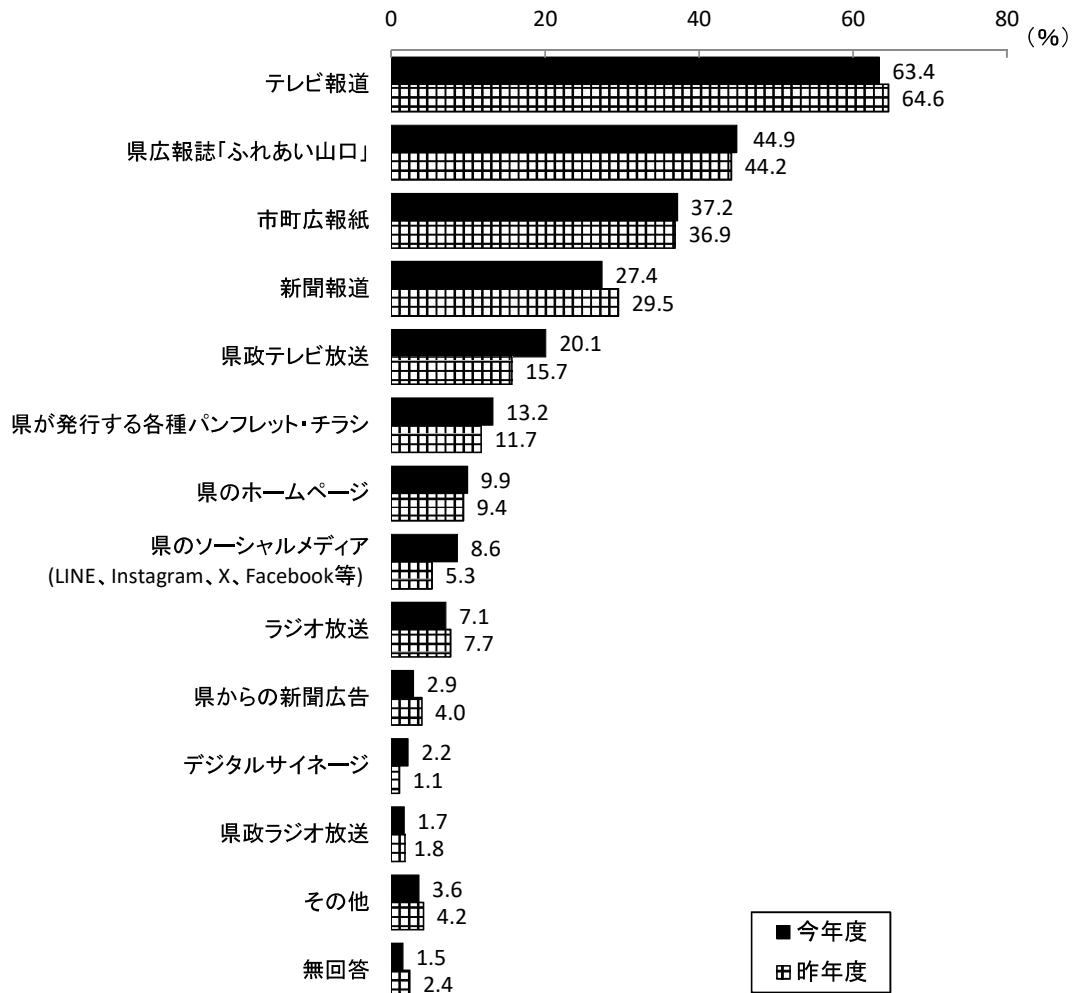


市町の政治・経済に対する関心度について、「大変関心がある」と「関心がある」を合わせた『関心がある(計)』が67.4%、「全く関心がない」と「あまり関心がない」を合わせた『関心がない(計)』が31.3%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

3. 県が行う広報の認知等

3-1. 県の仕事の認知媒体

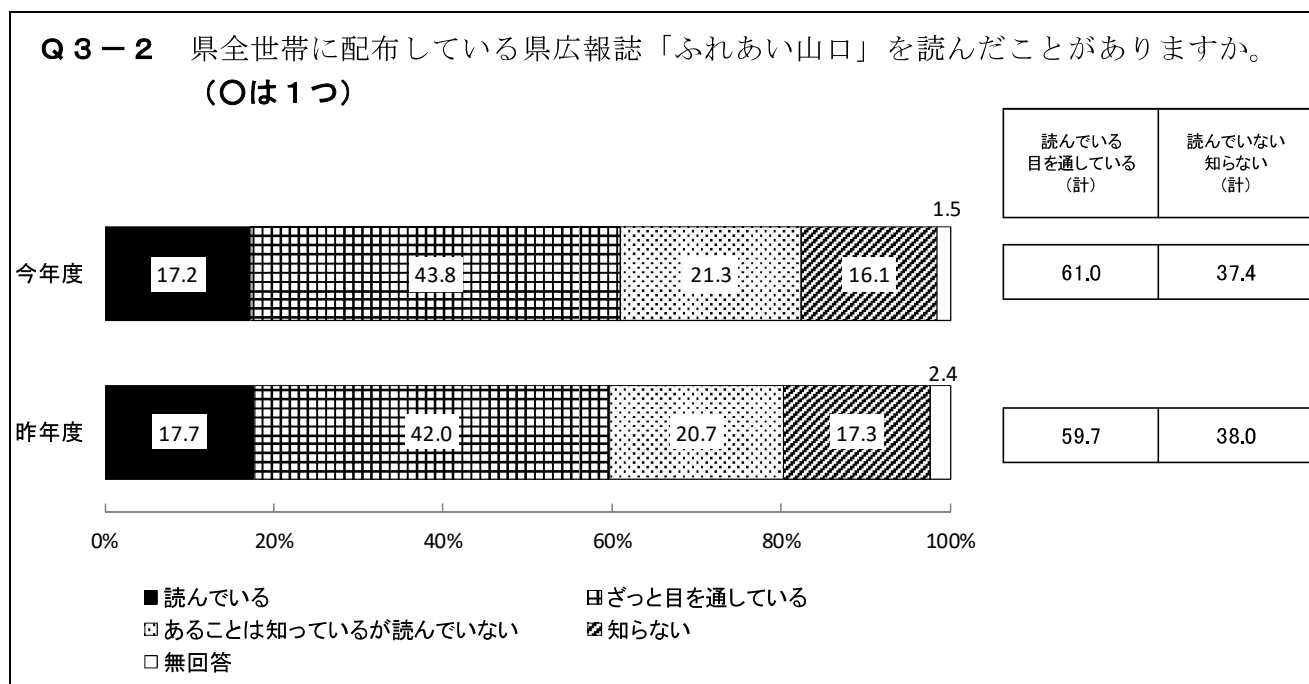
Q 3-1 あなたは日頃、県が行っている仕事などの県政情報を何によって知ることが多いですか。（〇はいくつでも）



※選択肢「県のソーシャルメディア(LINE、Instagram、X、Facebook等)」は昨年度「県のソーシャルメディア(LINE、X、Facebook等)」より変更となりました。

県の仕事の認知媒体について、「テレビ報道」が 63.4%と最も高く、次いで「県広報誌『ふれあい山口』」が 44.9%、「市町広報紙」が 37.2%、「新聞報道」が 27.4%、「県政テレビ放送」が 20.1%の順となっている。昨年度と比較すると、「県政テレビ放送」で 4.4 ポイント、「県のソーシャルメディア」で 3.3 ポイントそれぞれ上昇し、「新聞報道」で 2.1 ポイント低下している。

3-2. 「ふれあい山口」の閲読状況



県広報誌「ふれあい山口」の閲読状況について、「読んでいる」と「ざっと目を通して」を合わせた『読んでいる・目を通して (計)』は61.0%、「あることは知っているが読んでいない」と「知らない」を合わせた『読んでいない・知らない (計)』は37.4%となっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

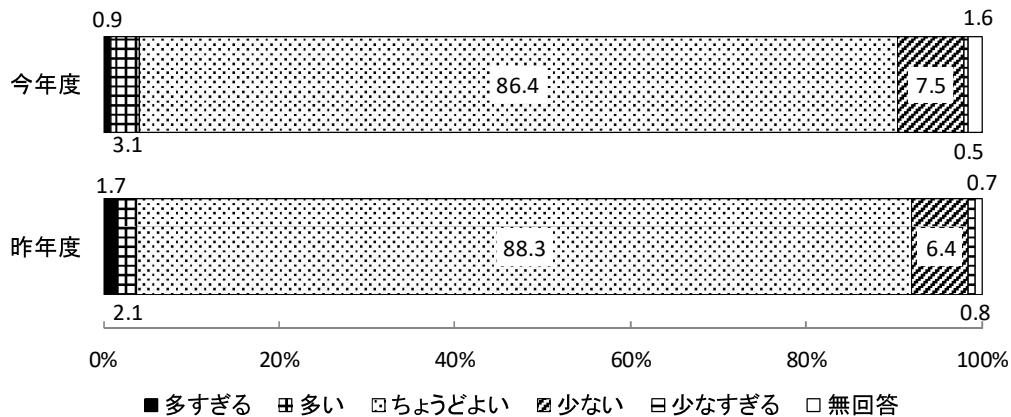
3-3. 「ふれあい山口」の内容に対する評価

【Q3-2で「読んでいる」と「ざっと目を通している」と回答した方に】 (n=870)

Q3-3 「ふれあい山口」の情報量及び読みやすさについておたずねします。

(○はそれぞれ1つ)

(1) 発行回数 (年4回)

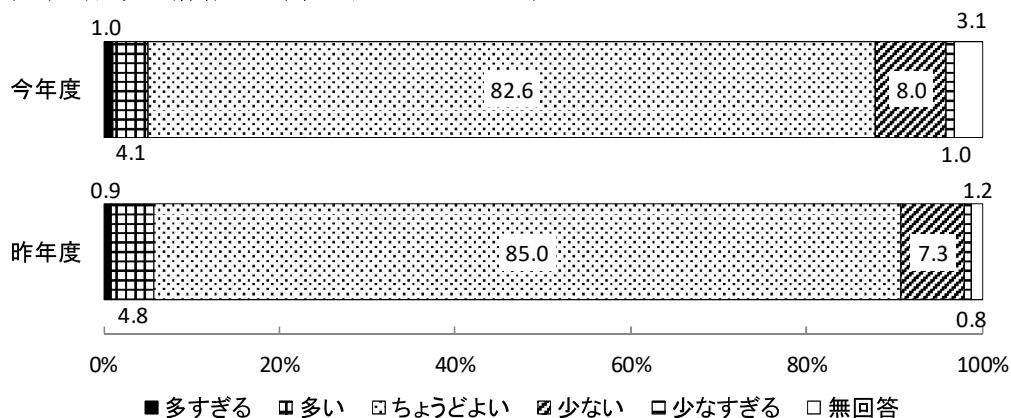


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

4.0	8.0
-----	-----

3.8	7.2
-----	-----

(2) 各号の情報量 (年4回：8ページ)

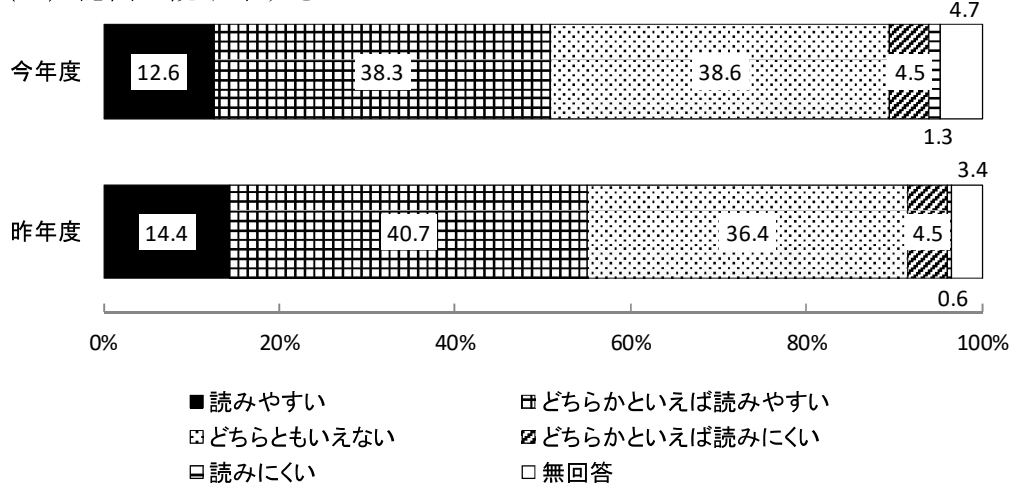


多い (計)	少ない (計)
-----------	------------

5.1	9.0
-----	-----

5.7	8.1
-----	-----

(3) 誌面の読みやすさ



読みやすい (計)	読みにくい (計)
--------------	--------------

50.9	5.8
------	-----

55.1	5.1
------	-----

Q3-2で「ふれあい山口」を「読んでいる」と「ざっと目を通して」と回答された方に、「ふれあい山口」の内容に対する評価について質問すると、発行回数は「ちょうどよい」が86.4%と最も高くなっており、昨年度と比較して目立った差異はみられない。情報量についても「ちょうどよい」が82.6%と最も高くなっており、昨年度と比較すると、2.4ポイント低下している。発行回数が「多すぎる」と「多い」を合わせた『多い（計）』および「少ない」と「少なすぎる」合わせた『少ない（計）』、情報量が「多すぎる」と「多い」を合わせた『多い（計）』および「少ない」と「少なすぎる」を合わせた『少ない（計）』については、昨年度と比較して目立った差異はみられない。また、読みやすさについては、「読みやすい」と「どちらかといえば読みやすい」を合わせた『読みやすい（計）』が50.9%となり、昨年度と比較して4.2ポイント低下している。

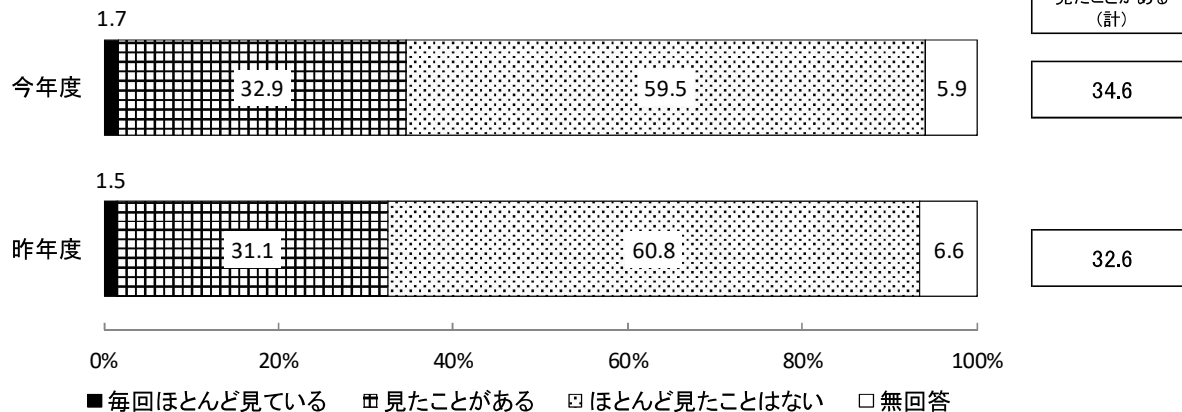
3-4. 各テレビ番組・各ラジオ番組の視聴（聴取）状況及び印象

Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

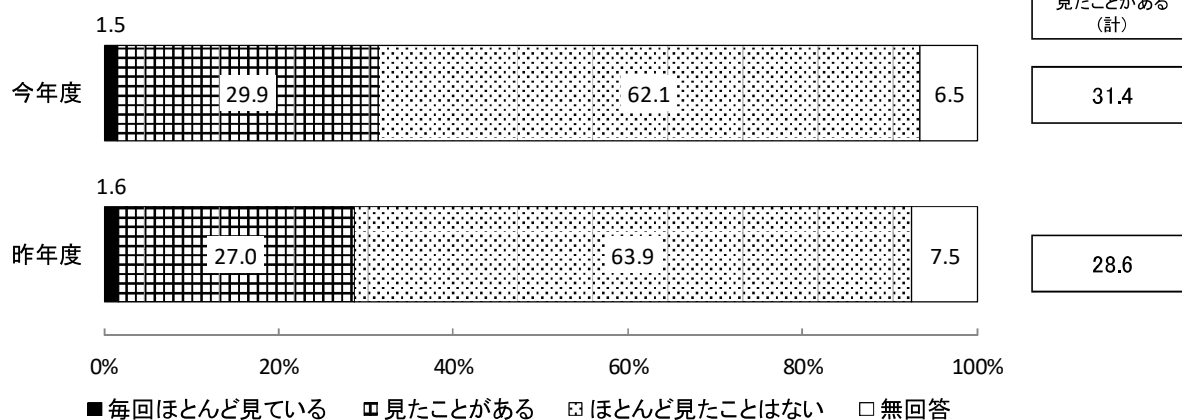
(1) 次の番組を視聴（または聴取）されたことがありますか。1、2、3から選んでください。

(○はそれぞれ1つ)

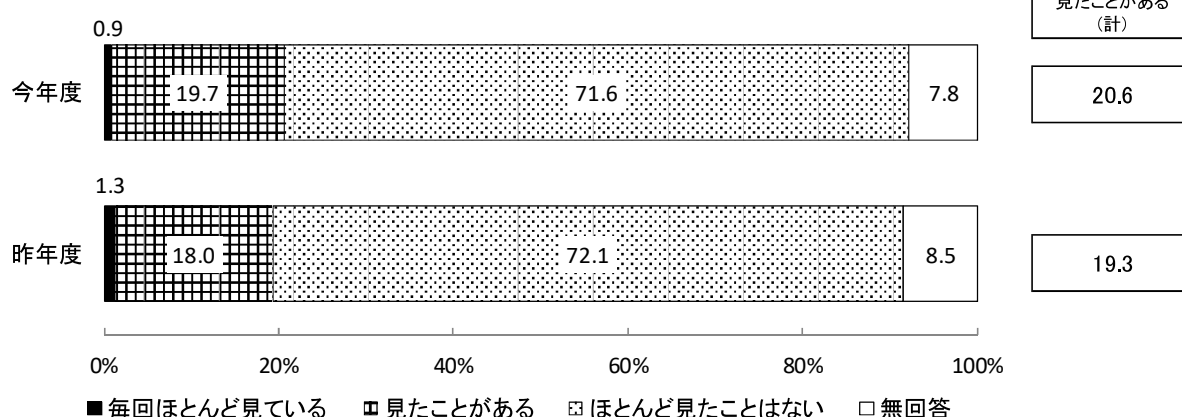
(ア) 「元気創出！やまぐち」 (K R Y山口放送)



(イ) 「大好き！やまぐち」 (T Y S テレビ山口)

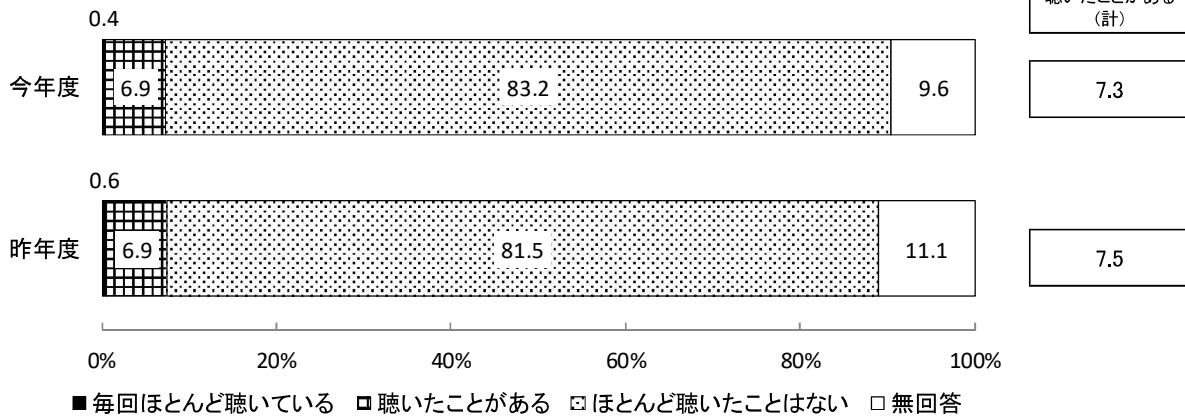


(ウ) 「イキイキ！山口」 (Y A B 山口朝日放送)

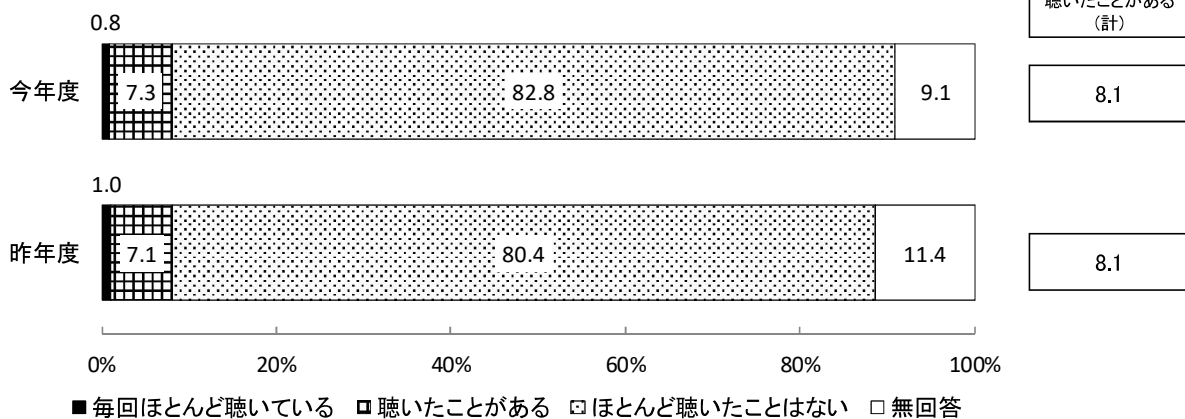


県が提供している県政テレビ番組の視聴状況について、「毎回ほとんど見ている」と「見たことがある」を合わせた『見ている・見たことがある (計)』は、「元気創出！やまぐち」が34.6%、「大好き！やまぐち」が31.4%、「イキイキ！山口」が20.6%となっている。昨年度と比較すると、「大好き！やまぐち」は2.8ポイント、「元気創出！やまぐち」は2.0ポイントそれぞれ上昇している。

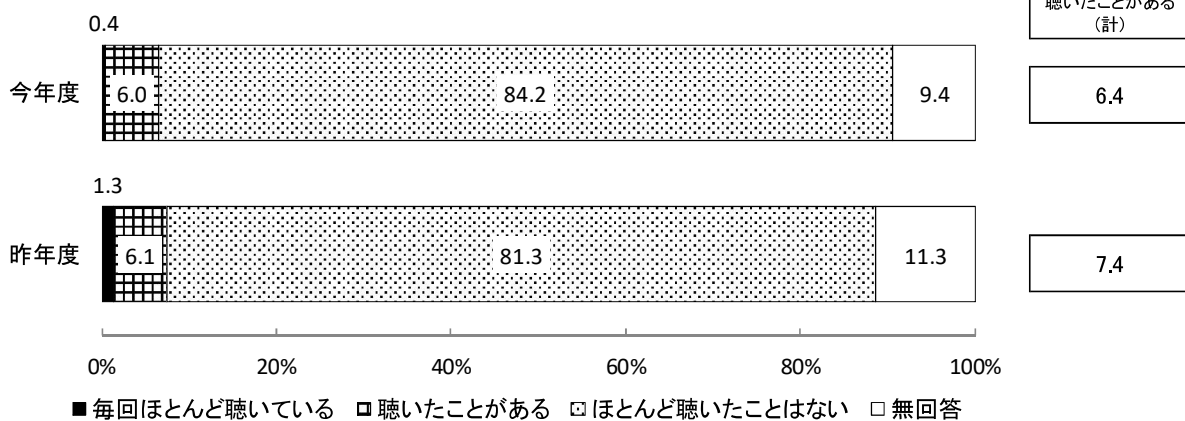
(エ) 「ワンポイント県政」 (K R Y山口放送)



(オ) 「FM県民ダイアリー」 (エフエム山口)



(カ) 「情報BOXやまぐち」 (エフエム山口)

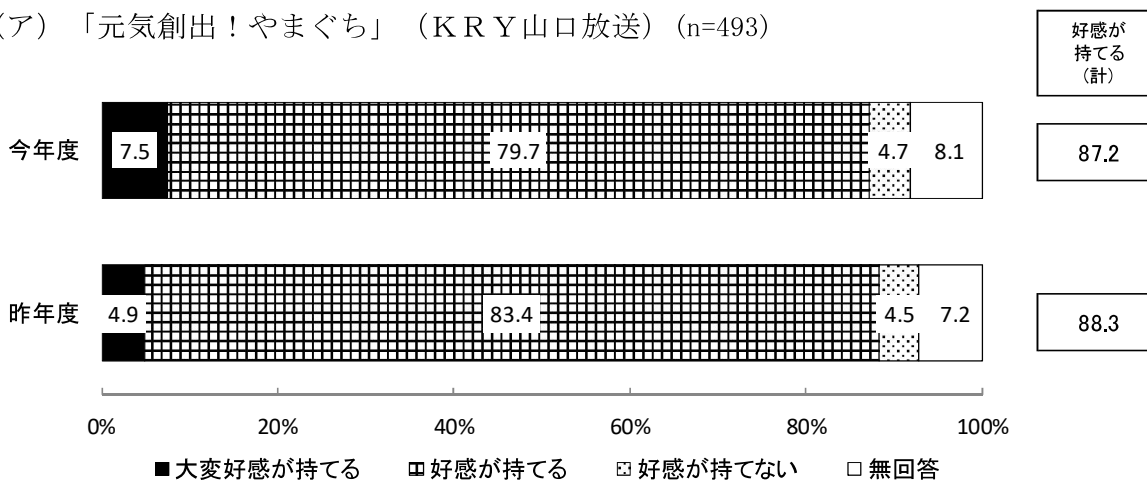


県が提供している県政ラジオ番組の聴取状況について、「毎回ほとんど聴いている」と「聴いたことがある」を合わせた『聴いている・聴いたことがある (計)』は、「ワンポイント県政」が7.3%、「FM県民ダイアリー」が8.1%、「情報BOXやまぐち」が6.4%となっている。昨年度と比較すると、「ほとんど聴いたことはない」は、「情報BOXやまぐち」で2.9ポイント、「FM県民ダイアリー」で2.4ポイントそれぞれ上昇している。

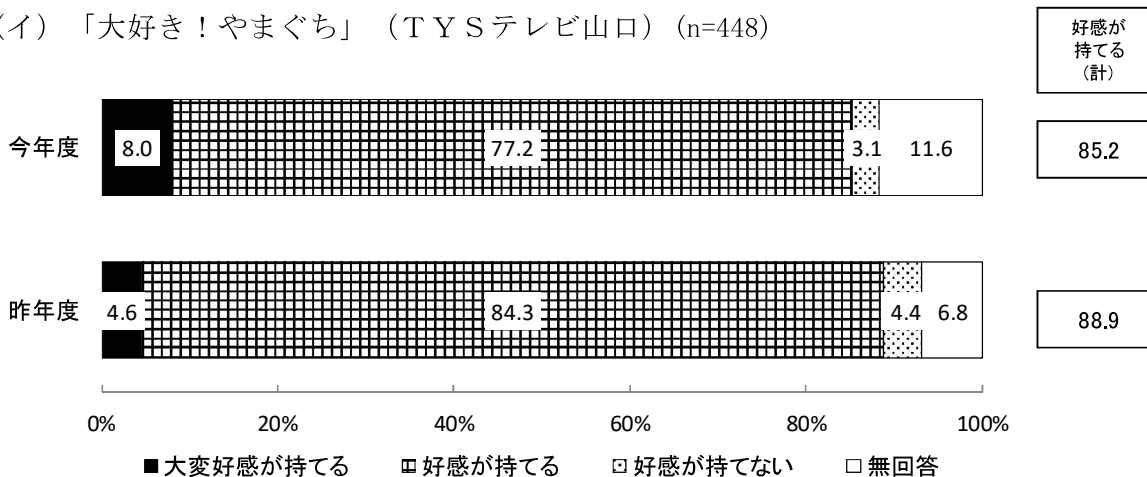
Q3-4 県が提供しているテレビ・ラジオの県政番組についておたずねします。

(2) 視聴（または聴取）されたことがある場合は、その番組の印象をア、イ、ウから選んでください。（〇はそれぞれ1つ）

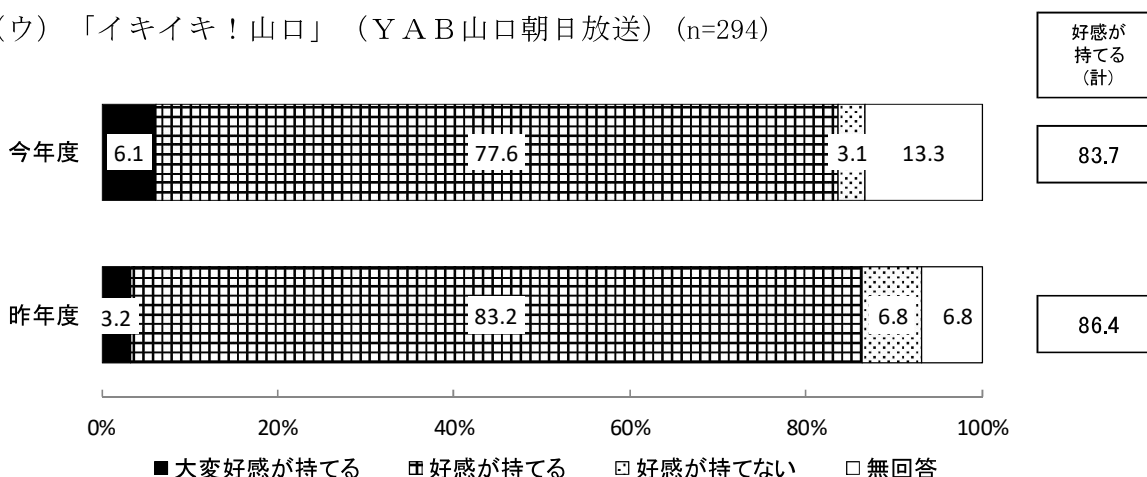
(ア) 「元気創出！やまぐち」（K R Y山口放送）（n=493）



(イ) 「大好き！やまぐち」（T Y S テレビ山口）（n=448）

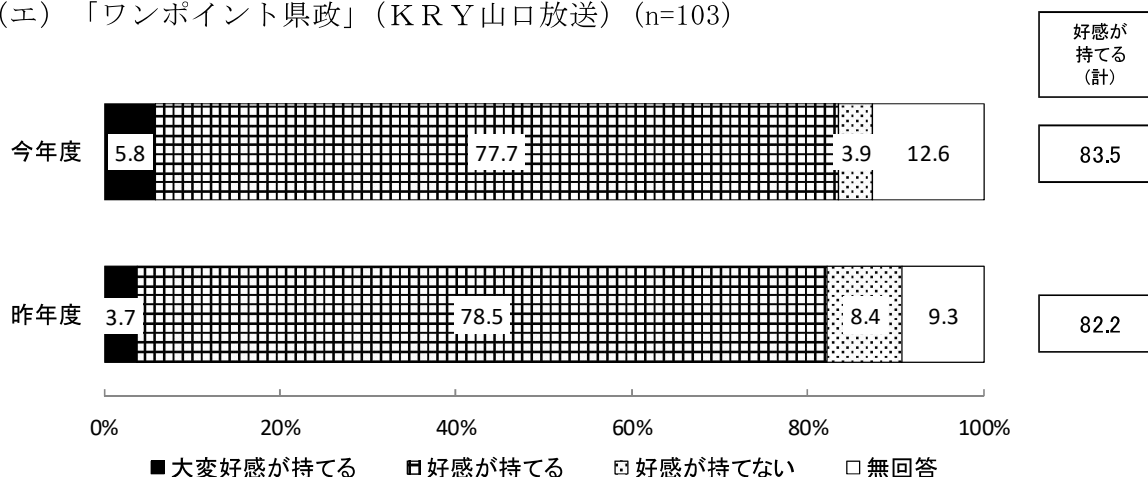


(ウ) 「イキイキ！山口」（Y A B 山口朝日放送）（n=294）

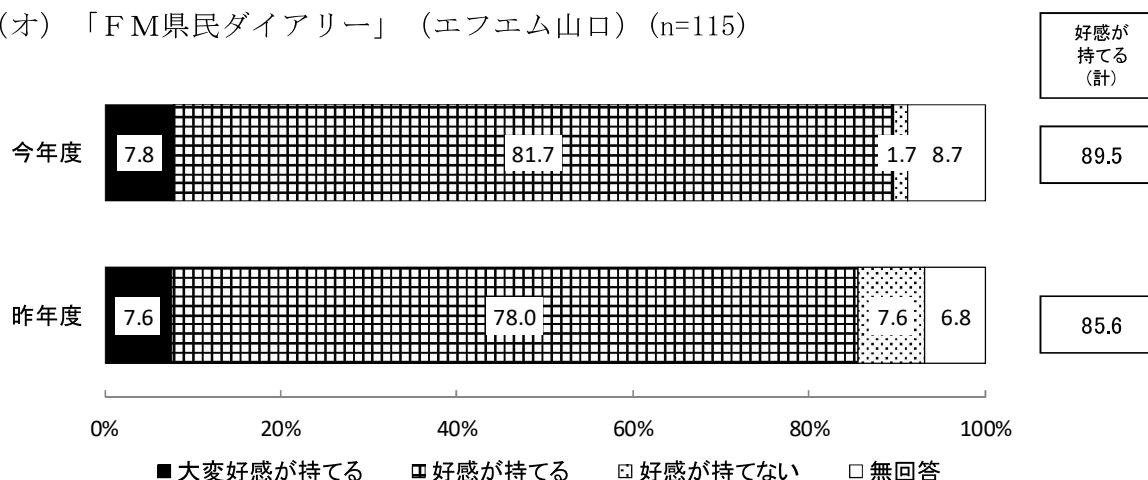


県が提供している県政テレビ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる（計）』はいずれも8割台となっている。昨年度と比べると、「大好き！やまぐち」は3.7ポイント、「イキイキ！山口」は2.7ポイントそれぞれ低下している。

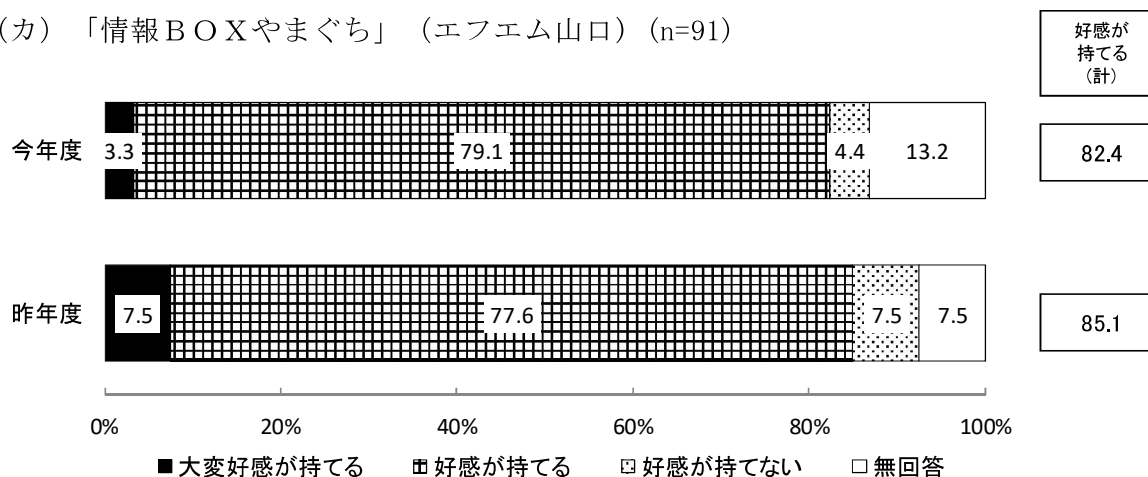
(エ) 「ワンポイント県政」(K R Y山口放送) (n=103)



(オ) 「F M県民ダイアリー」(エフエム山口) (n=115)



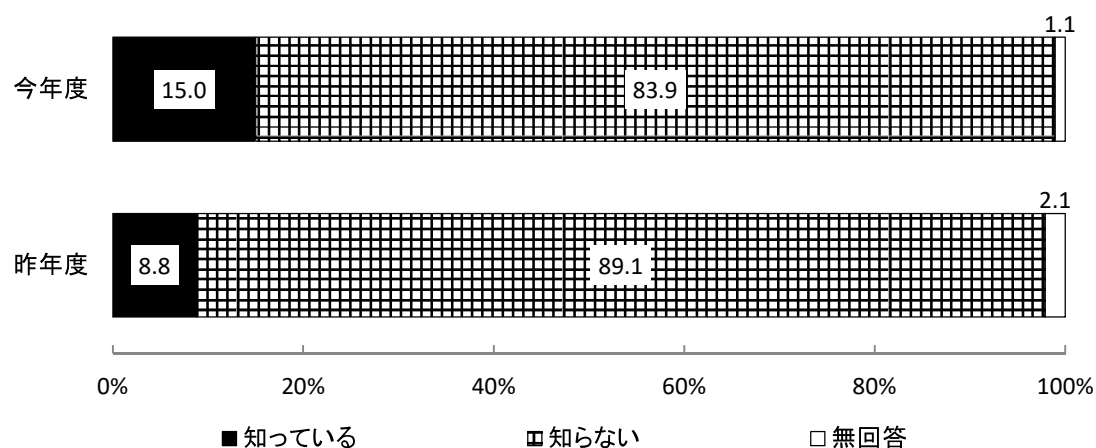
(カ) 「情報BOXやまぐち」(エフエム山口) (n=91)



県が提供している県政ラジオ番組の各番組の印象について、「大変好感が持てる」と「好感が持てる」を合わせた『好感が持てる (計)』はいずれも8割台となっている。昨年度と比較すると、「F M県民ダイアリー」は3.9ポイント上昇しており、「情報BOXやまぐち」は2.7ポイント低下している。

3-5. 県からの広報展開の認知度

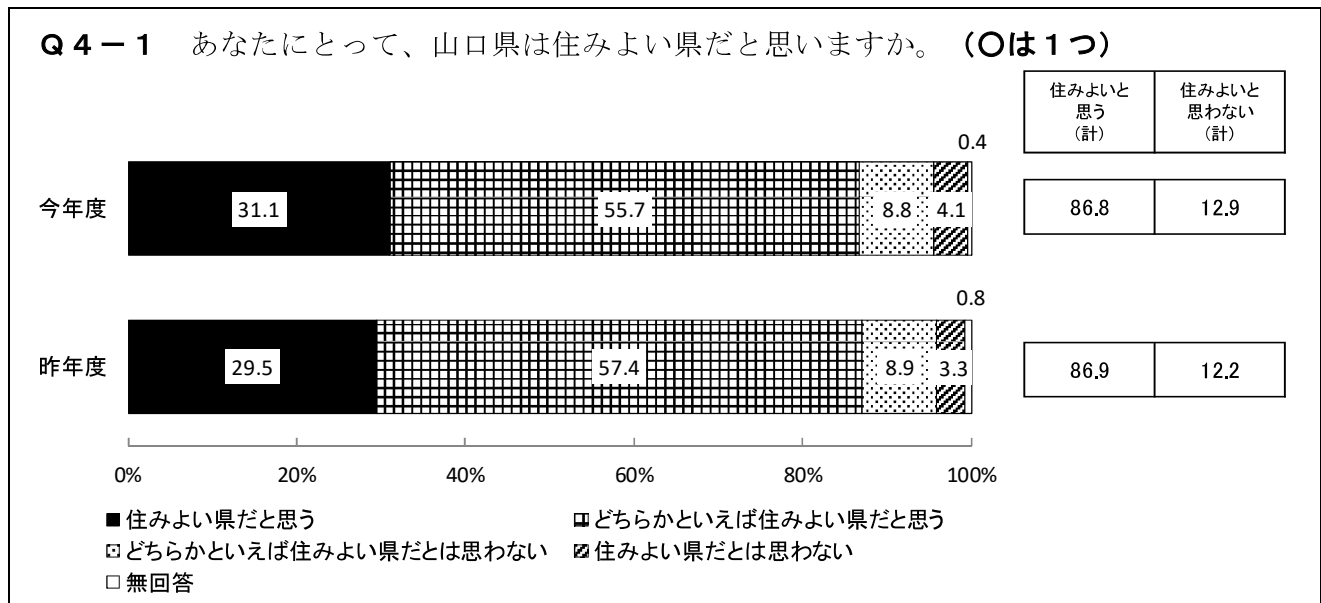
Q 3-5 県では、本県の多彩な魅力や施策等の情報を、SNS（LINE、Instagram、X、Facebook）等を活用し、ターゲットとなる方々に着実に届ける広報を展開しています。
あなたは、このことをご存じですか。（〇は1つ）



県の広報展開の認知度について、「知っている」が15.0%、「知らない」が83.9%となり、知らない人の割合が8割強を占めている。昨年度と比較すると、「知っている」は6.2ポイント上昇しており、「知らない」は5.2ポイント低下している。

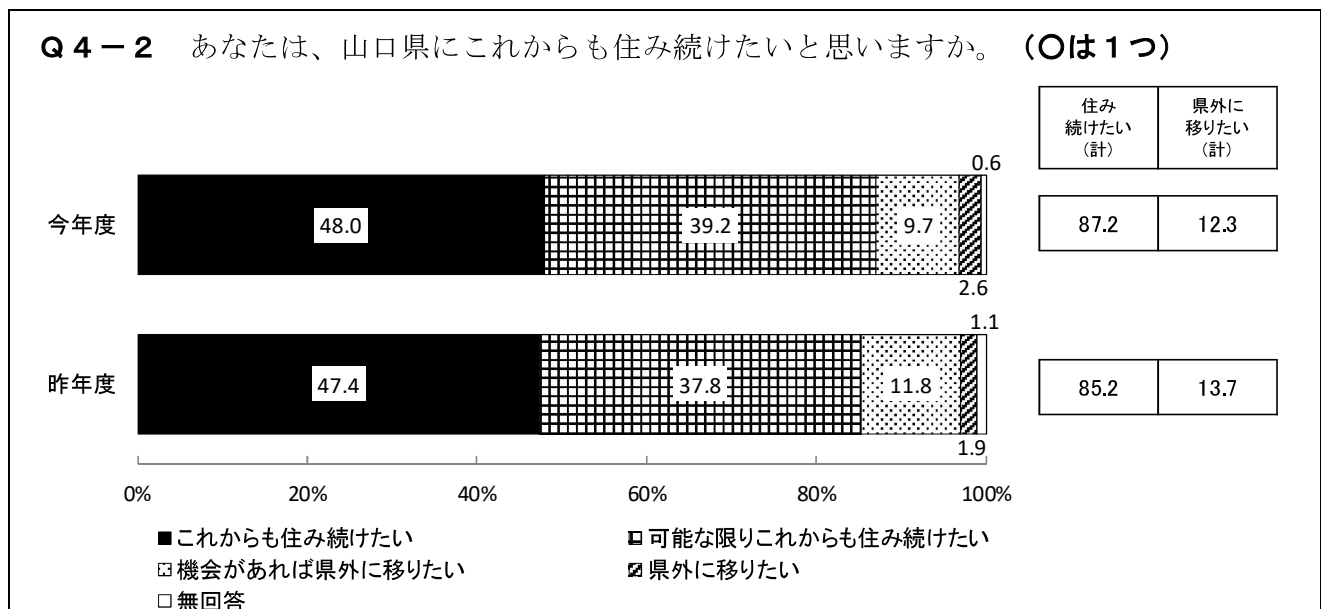
4. 県の取組に対する実感

4-1. 山口県の住みよさ



山口県の住みよさについて、「住みよい県だと思う」と「どちらかといえば住みよい県だと思う」を合わせた『住みよいと思う (計)』が 86.8%となっており、昨年度と比較すると、『住みよいと思う (計)』は 0.1 ポイント低下したが、引き続き、8割後半の高水準にある。

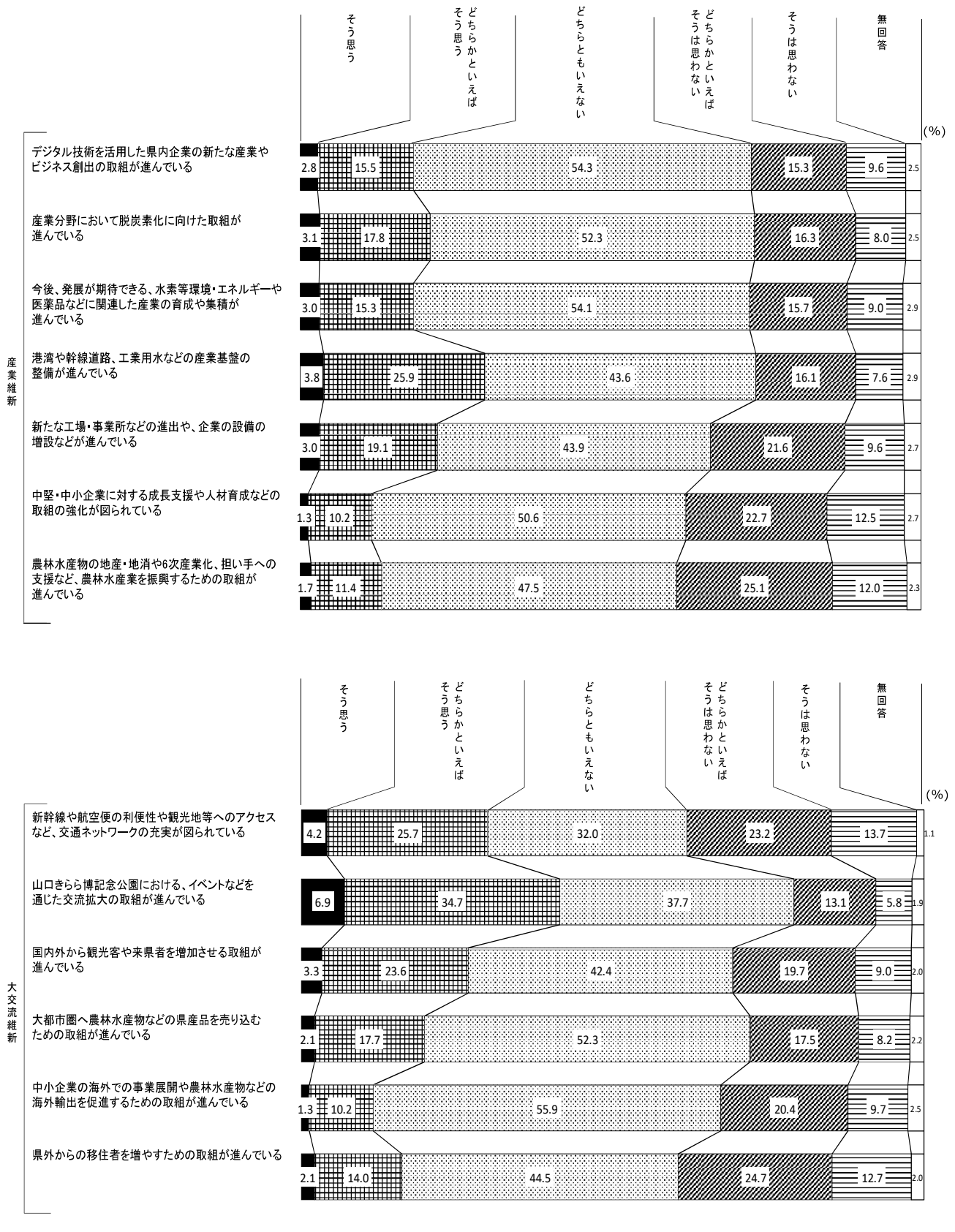
4-2. 今後の山口県での居留意向



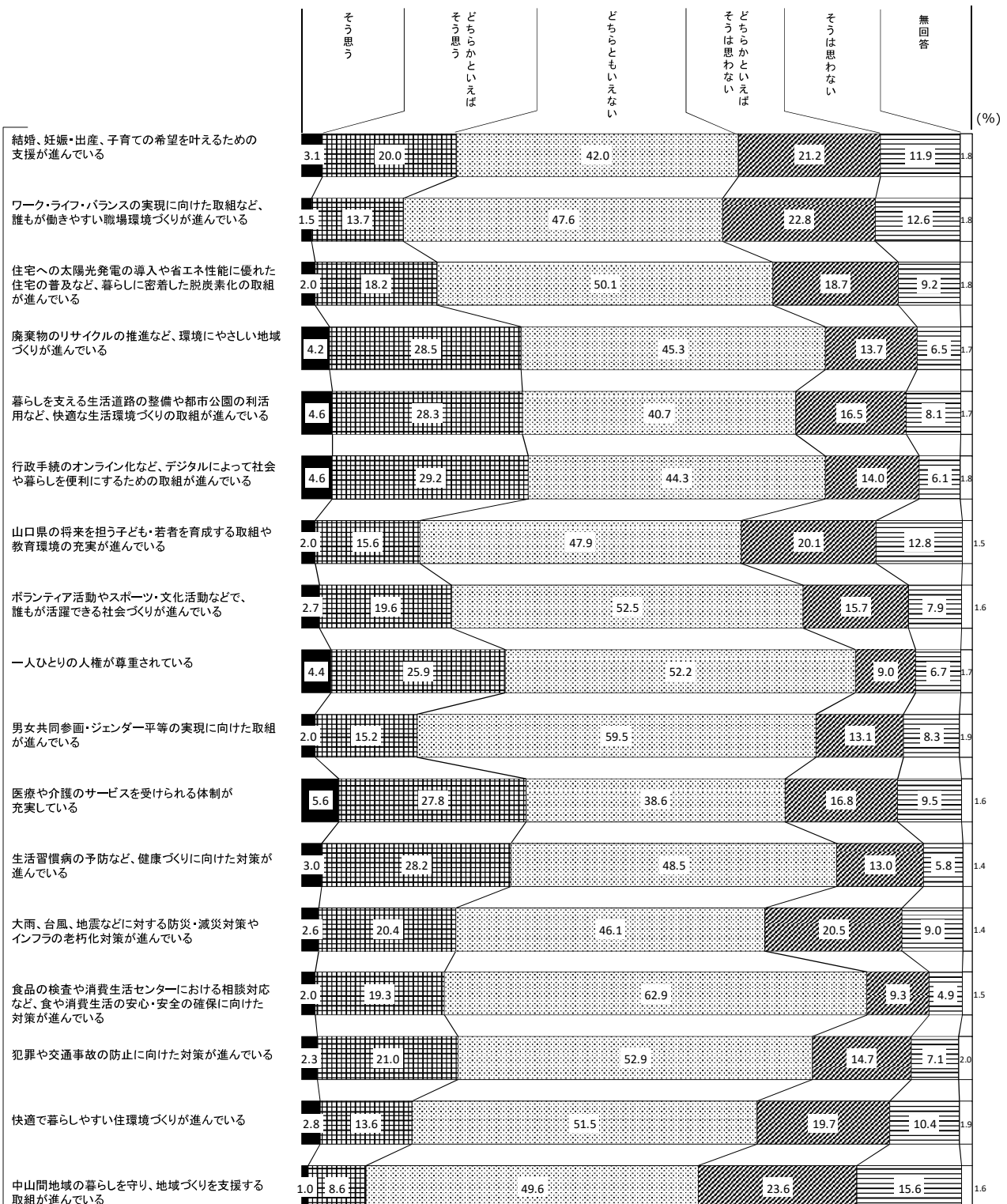
今後の山口県での居留意向について、「これからも住み続けたい」と「可能な限りこれからも住み続けたい」を合わせた『住み続けたい (計)』が 87.2%となっている。昨年度と比較すると、『住み続けたい (計)』は 2.0 ポイント上昇し、引き続き、8割後半の高水準にある。

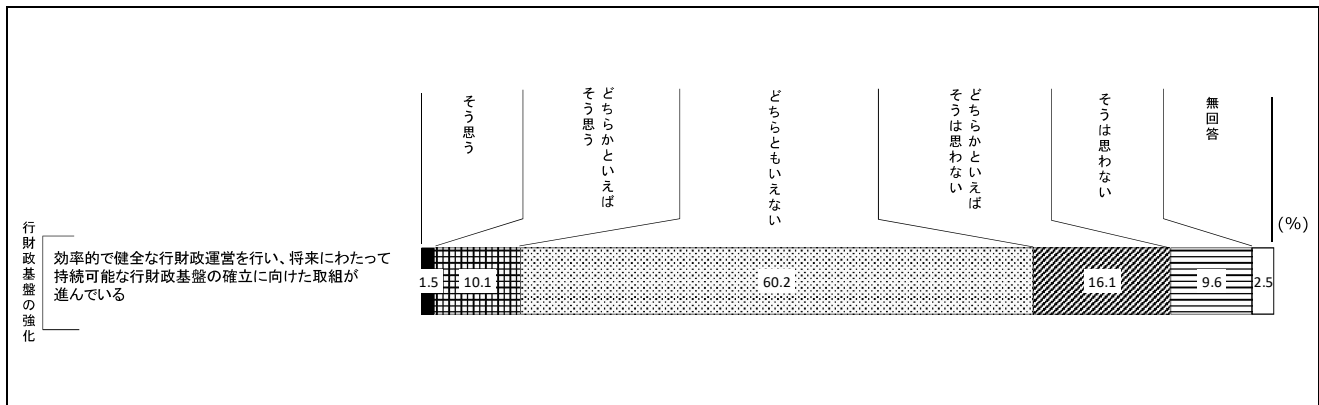
4-3. 県の取組に対する実感

Q4-4 「やまぐち未来維新プラン」では20のプロジェクトを掲げ重点的に施策を推進しています。これに関する県の取組について、あなたの実感についておたずねします。（〇はそれぞれ1つつ）



生活
維新

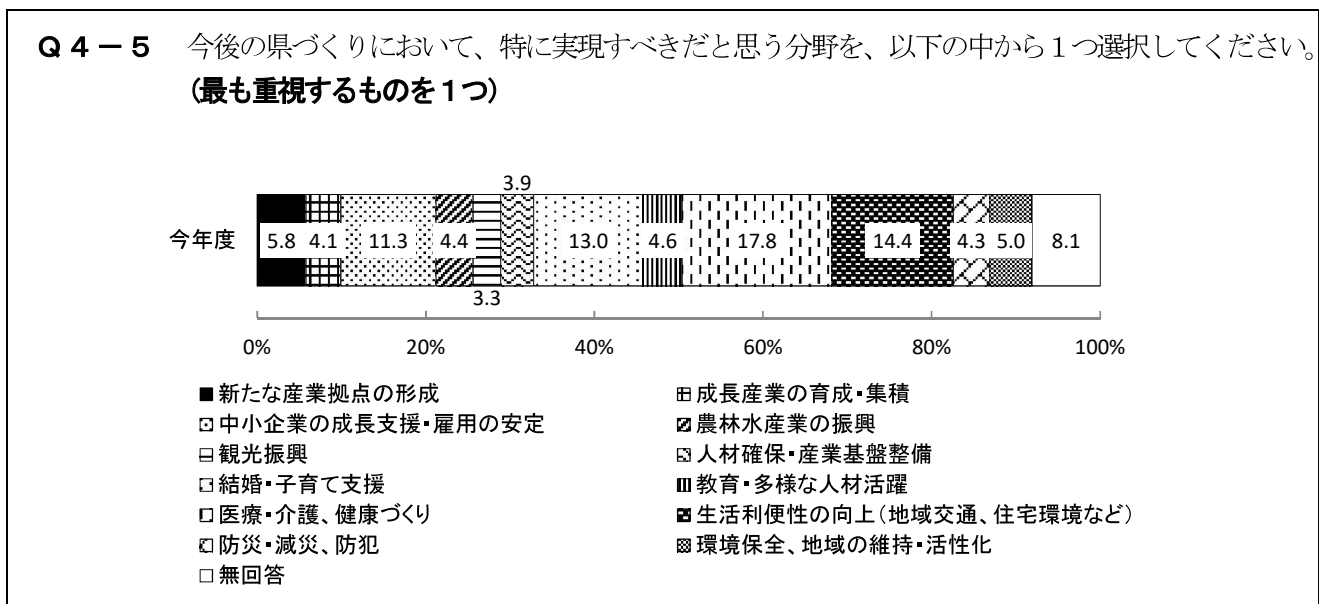




県の実感について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『思う（計）』の割合は、【大交流維新】分野の「山口きらら博記念公園における、イベントなどを通じた交流拡大の取組が進んでいる」が 41.6%、【生活維新】分野の「行政手続のオンライン化など、デジタルによって社会や暮らしを便利にするための取組が進んでいる」が 33.8%、【生活維新】分野の「医療や介護のサービスを受けられる体制が充実している」が 33.4%などで高くなっている。

一方、「そうは思わない」と「どちらかといえばそうは思わない」を合わせた『思わない（計）』の割合は、【生活維新】分野の「中山間地域の暮らしを守り、地域づくりを支援する取組が進んでいる」が 39.2%、【大交流維新】分野の「県外からの移住者を増やすための取組が進んでいる」が 37.4%、【産業維新】分野の「農林水産業の地産・地消や6次産業化、担い手への支援など、農林水産業を振興するための取組が進んでいる」が 37.1%などで高くなっている。

4-4. 今後の県づくりにおいて、特に実現すべきだと思う分野



今後の県づくりにおいて、特に実現すべきだと思う分野について、「医療・介護、健康づくり」が 17.8%と最も高く、次いで「生活利便性の向上（地域交通、住宅環境など）」が 14.4%、「結婚・子育て支援」が 13.0%、「中小企業の成長支援・雇用の安定」が 11.3%の順となっている。

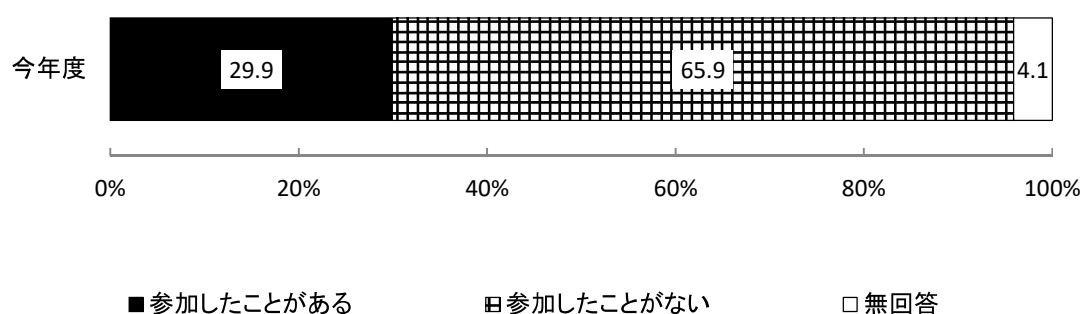
『その他、県が取組を進めている１６項目』

５．防災・減災対策について

５－１．防災活動参加経験

Ｑ５－１ あなたは、お住まいの地域や職場などでの防災活動（シェイクアウト訓練(※)、防災訓練、研修・講演など）に参加したことがありますか。（○は１つ）

※シェイクアウト訓練：合図に併せ、「DROP!（まず低く！）」、「COVER!（頭を守り！）」、「HOLD ON!（動かない！）」の三つの行動をとる訓練のことをいう。

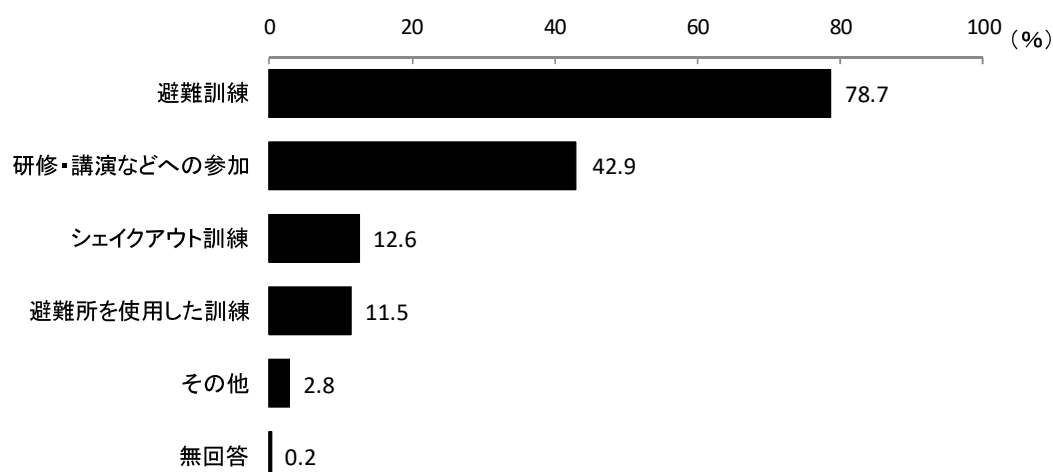


防災活動の参加経験について、「参加したことがある」が29.9%、「参加したことがない」が65.9%となっている。

５－２．参加した防災活動の種類

【Ｑ５－１で「１．参加したことがある」と回答した方に】（n=427）

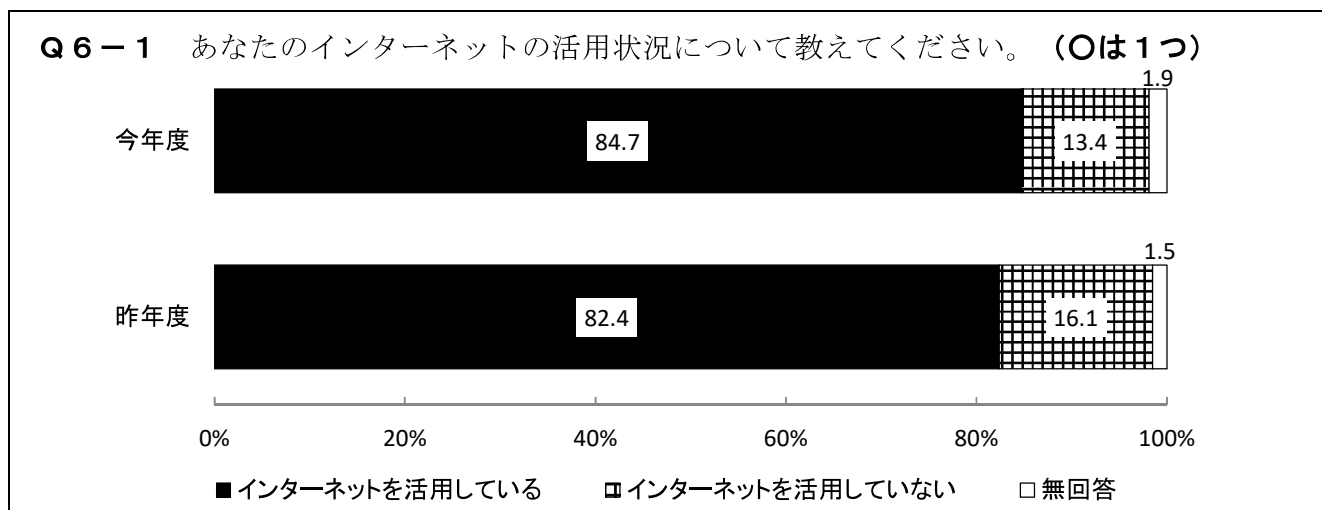
Ｑ５－２ あなたは、お住まいの地域や職場などで、どのような防災活動に参加しましたか。（○はいくつでも）



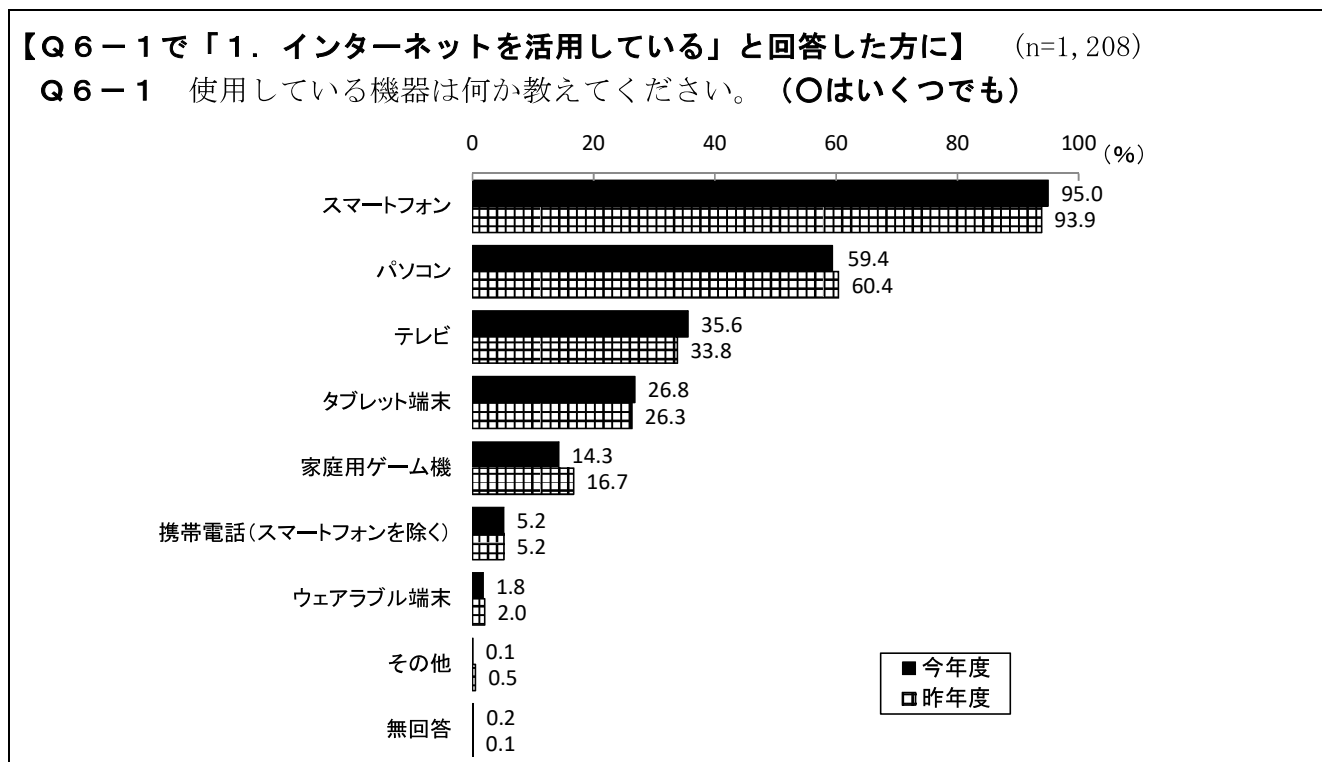
Ｑ５－１で「参加したことがある」と回答した方に、参加した防災活動について質問すると、「避難訓練」が78.7%と最も高く、次いで「研修・講演などへの参加」が42.9%、「シェイクアウト訓練」が12.6%、「避難所を使用した訓練」が11.5%の順となっている。

6. デジタル化について

6-1. インターネットの活用状況



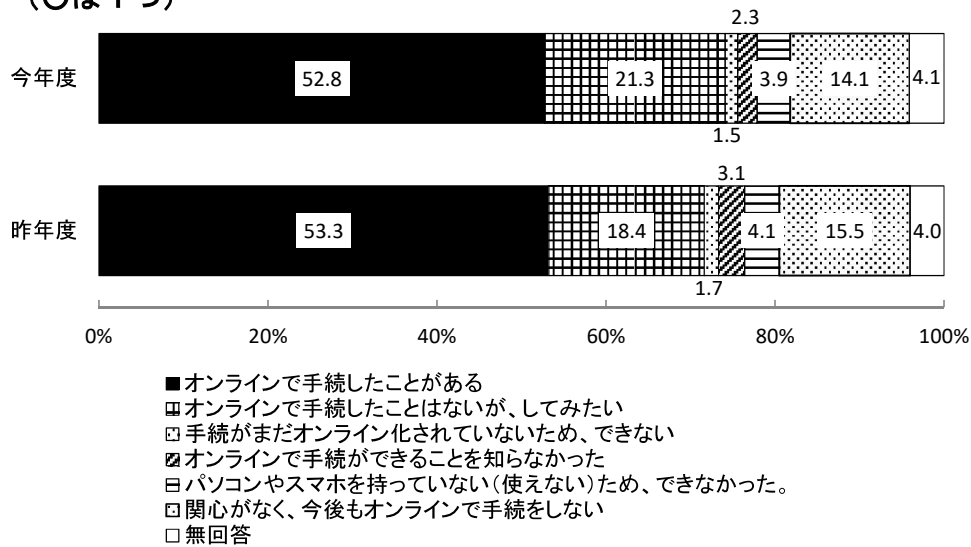
インターネットの活用状況について、「インターネットを活用している」が84.7%、「インターネットを活用していない」が13.4%となっている。昨年度と比較すると、「インターネットを活用している」は2.3ポイント上昇している。



Q 6-1で「インターネットを活用している」と回答した方に、使用している機器について質問すると、「スマートフォン」が95.0%と最も高く、次いで「パソコン」が59.4%、「テレビ」が35.6%、「タブレット端末」が26.8%、「家庭用ゲーム機」が14.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「家庭用ゲーム機」は2.4ポイント低下している。

6-2. 申請・届出等の行政手続のオンライン活用状況

Q 6-2 あなたは、申請・届出等の行政手続をオンライン（施設予約やマイナポータルなどの各種申請システム・電子メール等）で手続したことがありますか。
（○は1つ）

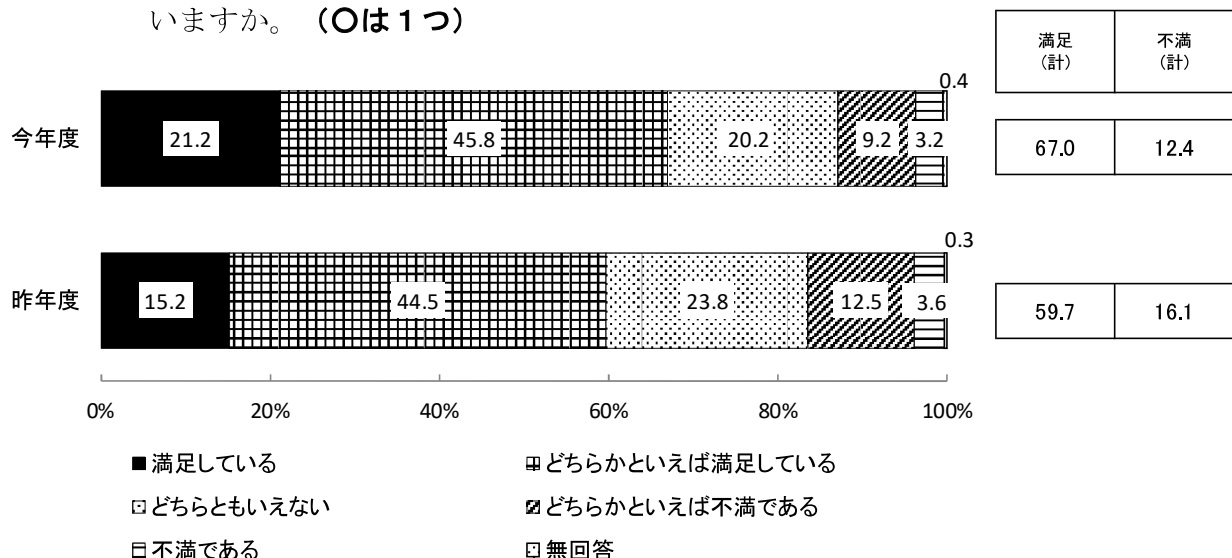


申請・届出等の行政手続のオンライン活用状況について、「オンラインで手続したことがある」が52.8%、「オンラインで手続したことはないが、してみたい」が21.3%となっている。昨年度と比較すると、「オンラインで手続したことはないが、してみたい」は2.9ポイント上昇している。

6-3. オンラインでの手続の満足度

【Q 6-2で「オンラインで手続したことがある」と回答した方に】 (n=753)

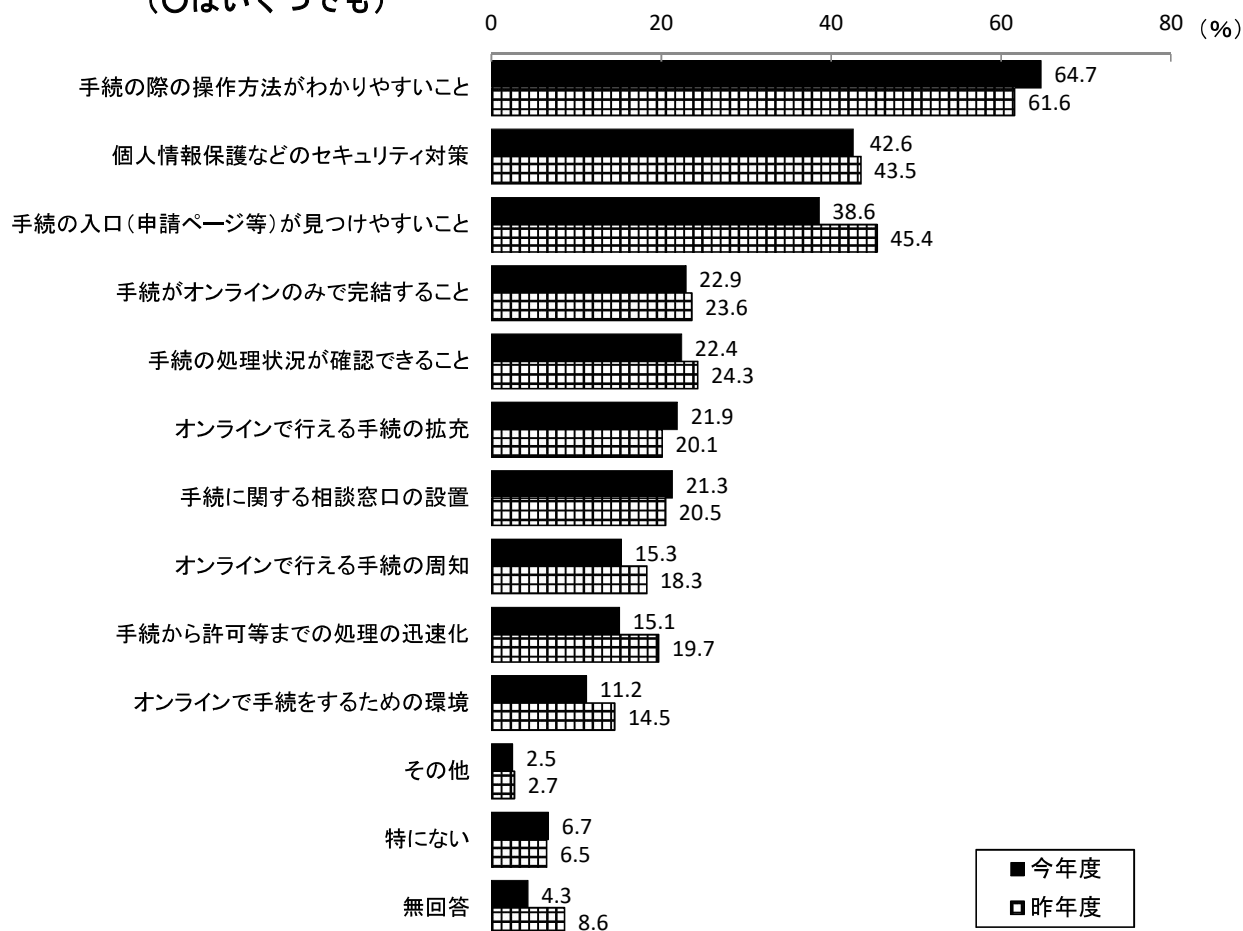
Q 6-3 オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについて、どの程度満足していますか。（○は1つ）



オンラインでの手続の利用のしやすさや分かりやすさについて、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足 (計)』が67.0%、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満 (計)』が12.4%となっている。昨年度と比較すると、『満足 (計)』は7.3ポイント上昇し、『不満 (計)』は3.7ポイント低下している。

6-4. オンライン手続の促進に必要なこと

Q 6-4 あなたは、オンラインでの手続を促進するために、何が必要と考えますか。
(○はいくつでも)



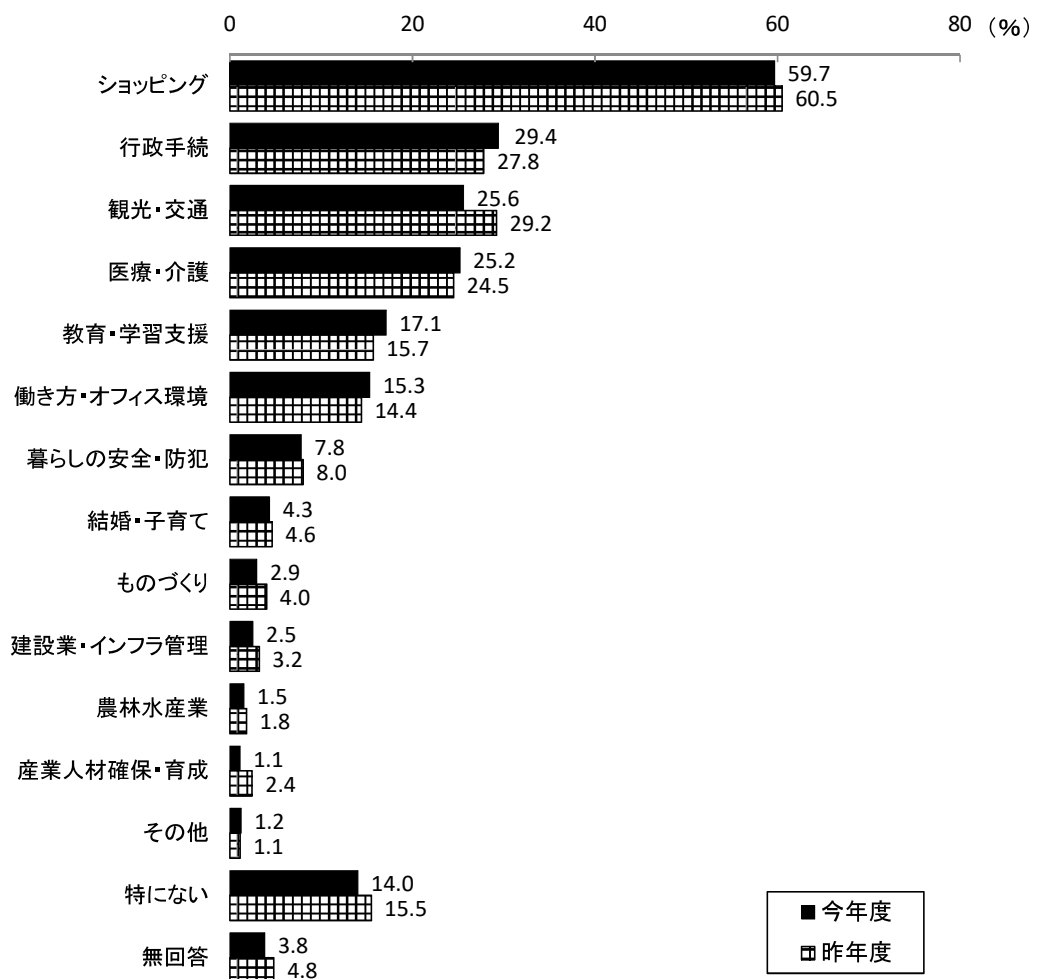
※選択肢「手続の入口(申請ページ等)が見つけやすいこと」は昨年度「手続を行うための入口のわかりやすさ」より変更となりました。

※選択肢「手続の際の操作方法がわかりやすいこと」は昨年度「手続の際の操作方法のわかりやすさ」より変更となりました。

オンライン手続の促進に必要なことについて、「手続の際の操作方法がわかりやすいこと」が 64.7%と最も高く、次いで「個人情報保護などのセキュリティ対策」が 42.6%、「手続の入口(申請ページ等)が見つけやすいこと」が 38.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「手続の際の操作方法がわかりやすいこと」は 3.1 ポイント上昇し、「手続の入口(申請ページ等)が見つけやすいこと」は 6.8 ポイント、「手続から許可等までの処理の迅速化」は 4.6 ポイントそれぞれ低下している。

6-5. デジタル技術の活用で便利になったと思う分野

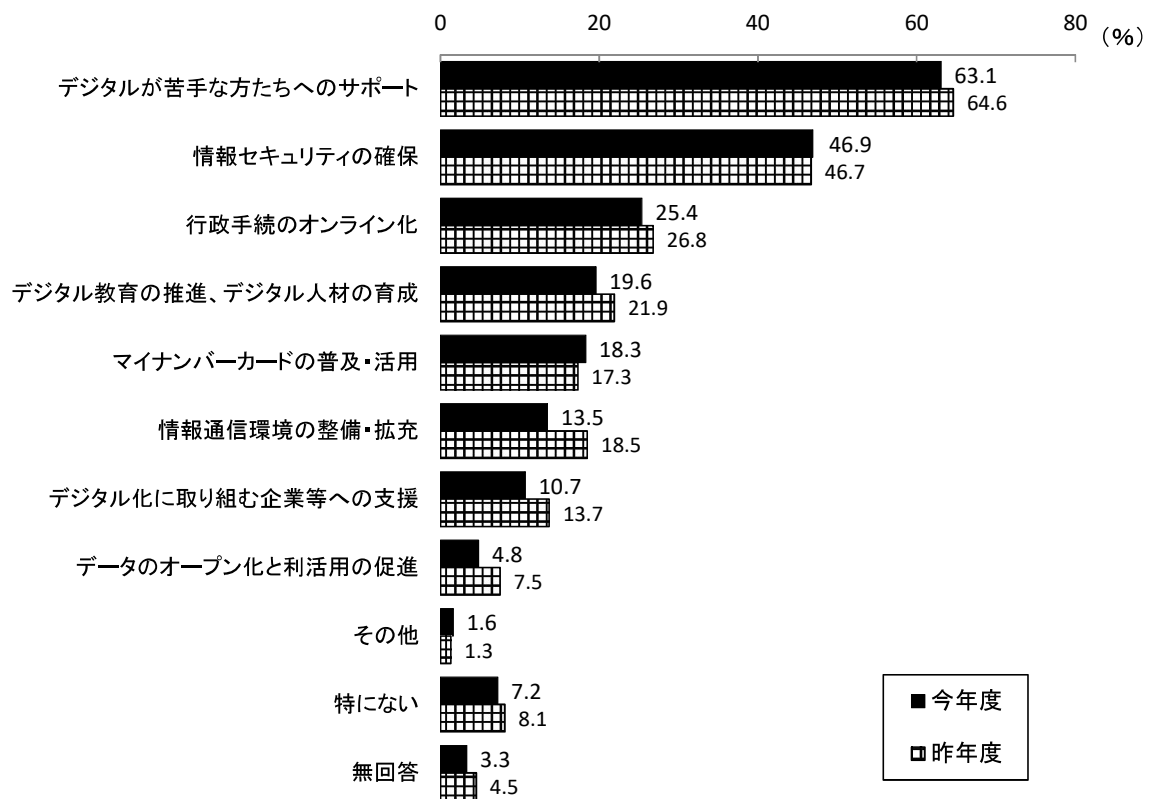
Q 6-5 あなたは、どのような分野において、デジタル技術の活用で便利になったと思いますか。（〇はいくつでも）



デジタル技術の活用で便利になったと思う分野について、「ショッピング」が 59.7%と最も高く、次いで「行政手続」が 29.4%、「観光・交通」が 25.6%、「医療・介護」が 25.2%の順となっている。昨年度と比較すると、「観光・交通」は 3.6 ポイント低下している。

6-6. デジタル化が進むために必要な取組

Q6-6 本県でデジタル化が進むためには、どのような取組が必要と考えますか。
(〇はいくつでも)

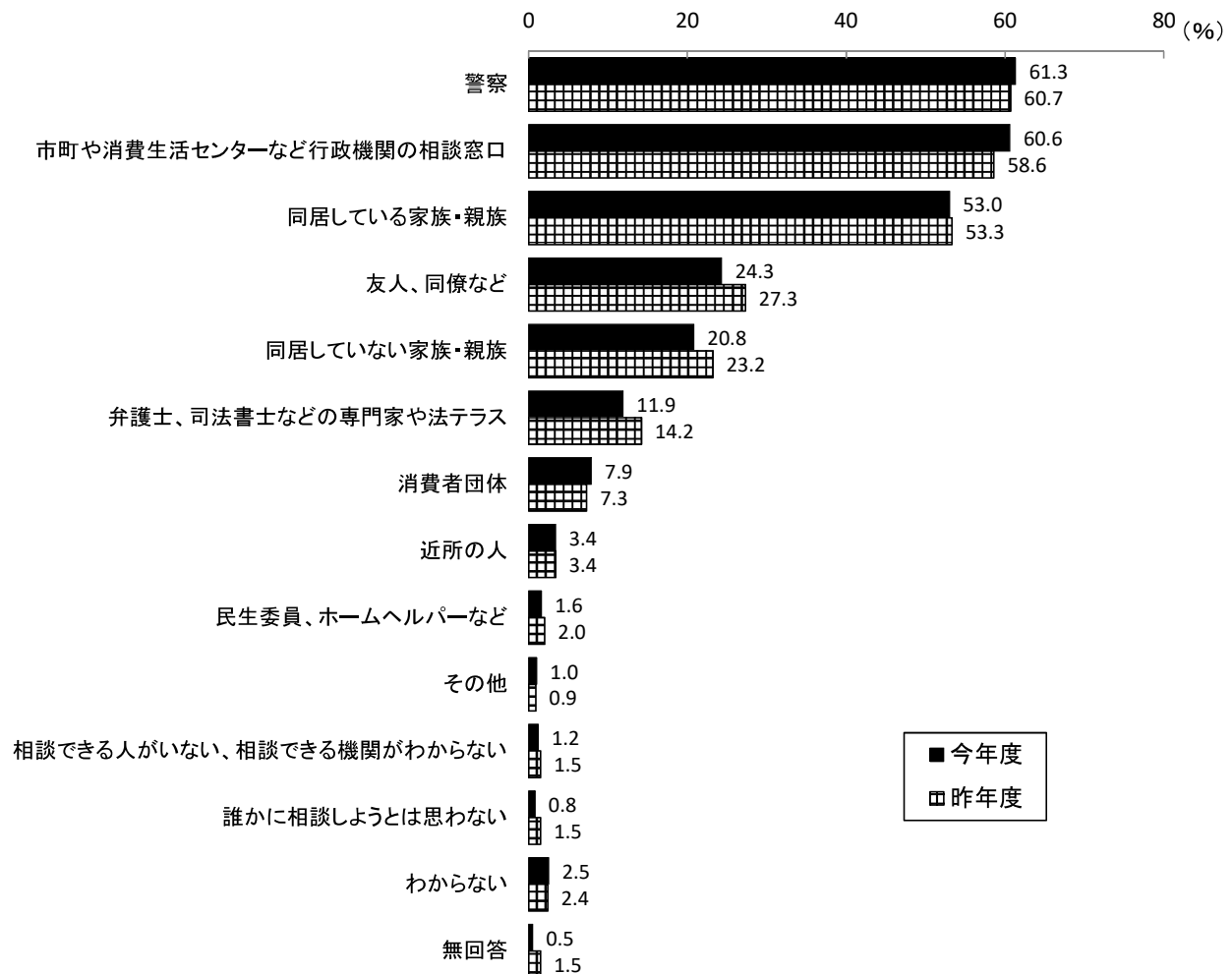


デジタル化が進むために必要な取組について、「デジタルが苦手な方たちへのサポート」が 63.1%と最も高く、次いで「情報セキュリティの確保」が 46.9%、「行政手続のオンライン化」が 25.4%、「デジタル教育の推進、デジタル人材の育成」が 19.6%、「マイナンバーカードの普及・活用」が 18.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「情報通信環境の整備・拡充」は 5.0 ポイント、「デジタル化に取り組む企業等への支援」は 3.0 ポイントそれぞれ低下している。

7. 消費生活に関することについて

7-1. 被害を受けた時の相談相手

Q7 あなたは、強引な勧誘や詐欺的な勧誘を受けた場合や、そのような勧誘により契約をしてしまった場合、誰に相談しようと思いますか。(〇はいくつでも)

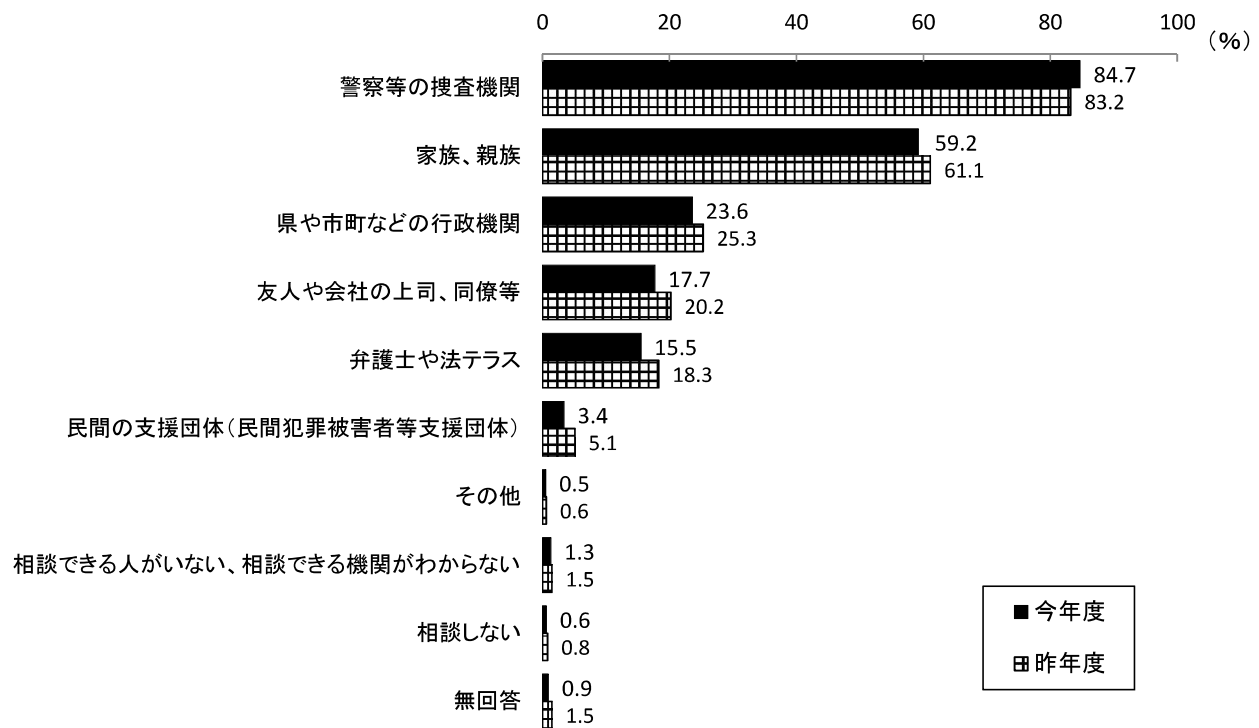


被害を受けた時の相談相手について、「警察」が 61.3%と最も高く、次いで「市町や消費生活センターなど行政機関の相談窓口」が 60.6%、「同居している家族・親族」が 53.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「市町や消費生活センターなど行政機関の相談窓口」は 2.0 ポイント上昇し、「友人、同僚など」は 3.0 ポイント、「同居していない家族・親族」は 2.4 ポイントそれぞれ低下している。

8. 犯罪被害者等支援について

8-1. 犯罪被害に遭った場合の相談相手

Q 8-1 あなたが犯罪被害に遭ってしまった場合、誰に相談しようと思いますか。
(〇はいくつでも)

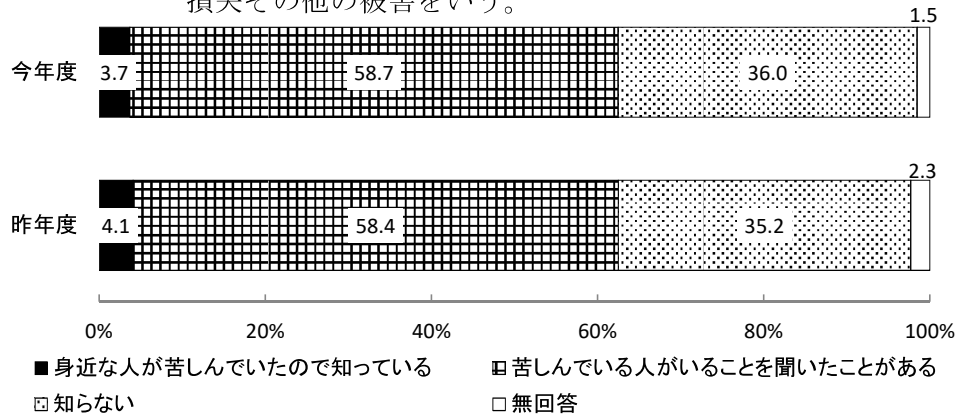


犯罪被害に遭った場合の相談相手について、「警察等の捜査機関」が 84.7%と最も高く、次いで「家族・親族」が 59.2%、「県や市町などの行政機関」が 23.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「弁護士や法テラス」は 2.8 ポイント、「友人や会社の上司、同僚等」は 2.5 ポイントそれぞれ低下している。

8-2. 「二次的被害」の認知状況

Q 8-2 あなたは、犯罪被害に遭われた方やその家族又は遺族が「二次的被害※」により苦しんでいる実情があることを知っていますか。（○は1つ）

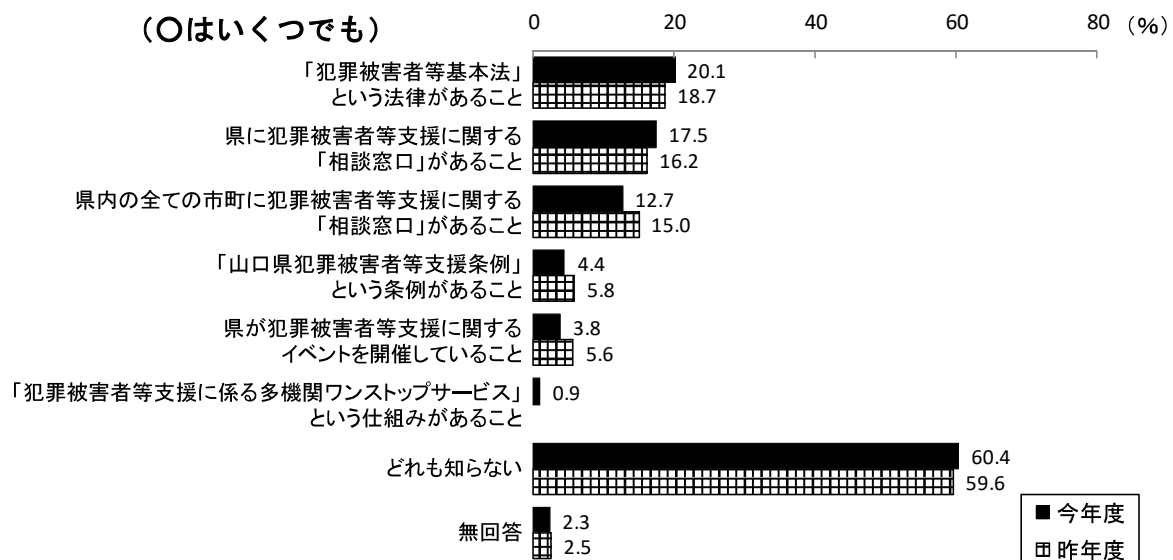
※二次的被害：犯罪等による直接的な被害を受けた後に、犯罪被害者等に対する配慮に欠ける言動、誹謗中傷、過剰な取材等により、犯罪被害者等が受ける精神的な苦痛、身体の不調、名誉の毀損、私生活の平穩の侵害、経済的な損失その他の被害をいう。



「二次的被害」の認知状況について、「身近な人が苦しんでいたのを知っている」が3.7%、「苦しんでいる人がいることを聞いたことがある」が58.7%、「知らない」が36.0%となっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

8-3. 犯罪被害者等支援に関するものの認知状況

Q 8-3 あなたは、次の犯罪被害者等支援に関するものを知っていますか。（○はいくつでも）



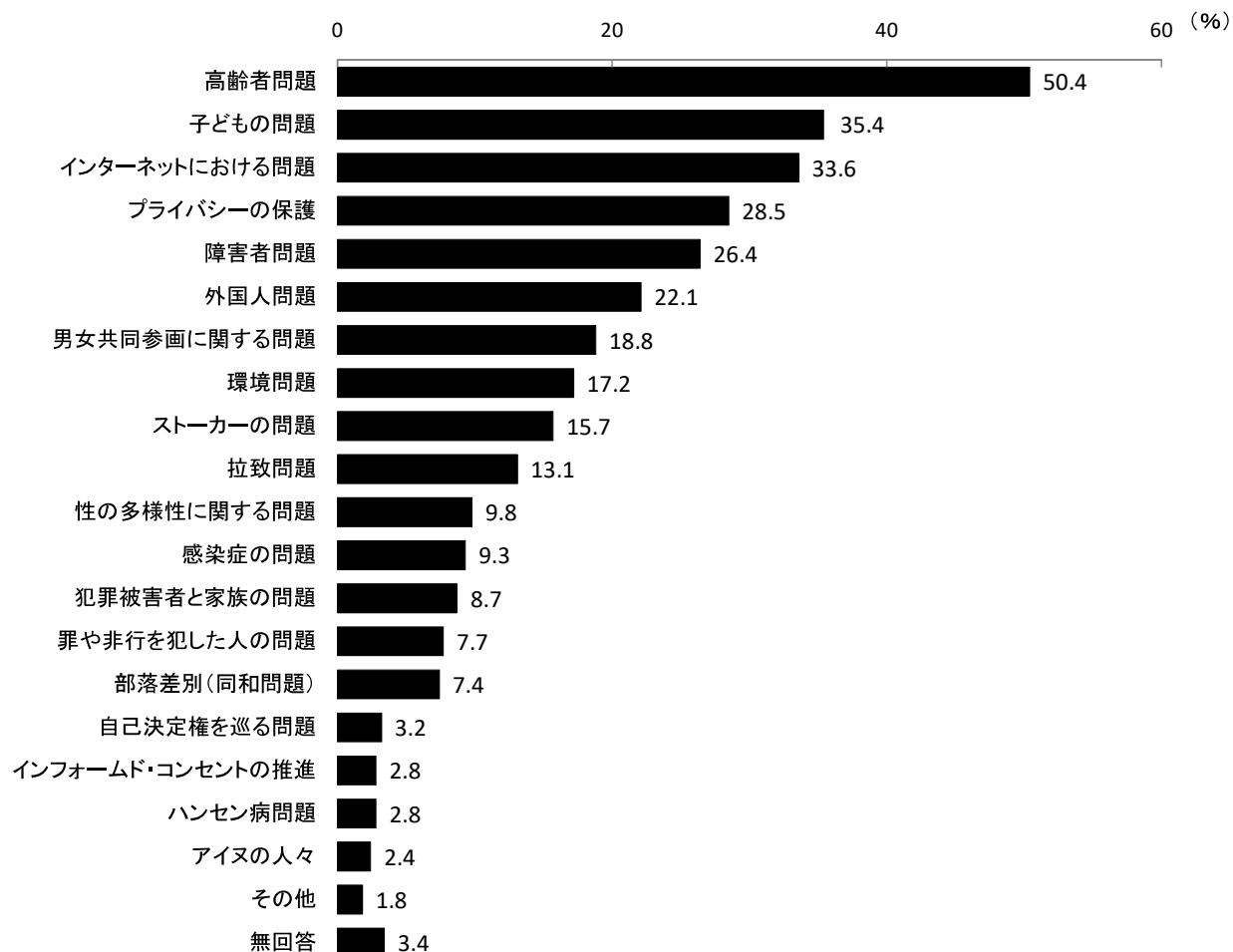
※選択肢「犯罪被害者等支援に係る多機関ワンストップサービス」という仕組みがあることは今年度新設のため、昨年度のデータはありません。

犯罪被害者等支援に関するものの認知状況について、「どれも知らない」が60.4%と最も高くなった。また、知っているものについては、「犯罪被害者等基本法」という法律があることが20.1%、「県に犯罪被害者等支援に関する「相談窓口」があること」が17.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「県内の全ての市町に犯罪被害者等支援に関する「相談窓口」があること」は2.3ポイント低下している。

9. 人権について

9-1. 「人権問題」への関心

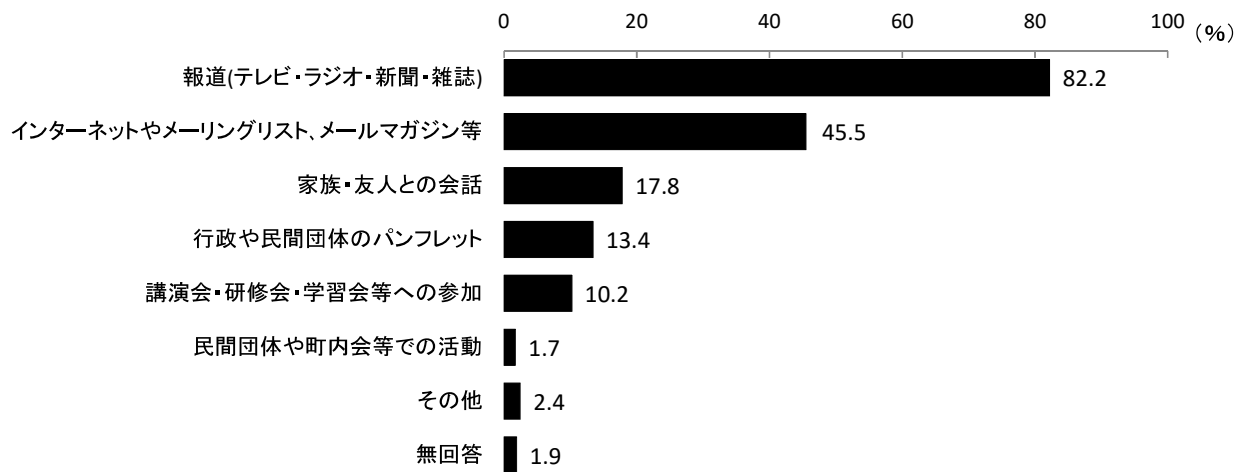
Q9-1 あなたは、現在どのような「人権問題」に関心をお持ちですか。（〇はいくつでも）



「人権問題」への関心について、「高齢者問題」が 50.4%と最も高く、次いで「子どもの問題」が 35.4%、「インターネットにおける問題」が 33.6%、「プライバシーの保護」が 28.5%、「障害者問題」が 26.4%の順となっている。

9-2. 人権問題に関する知識や情報の収集媒体

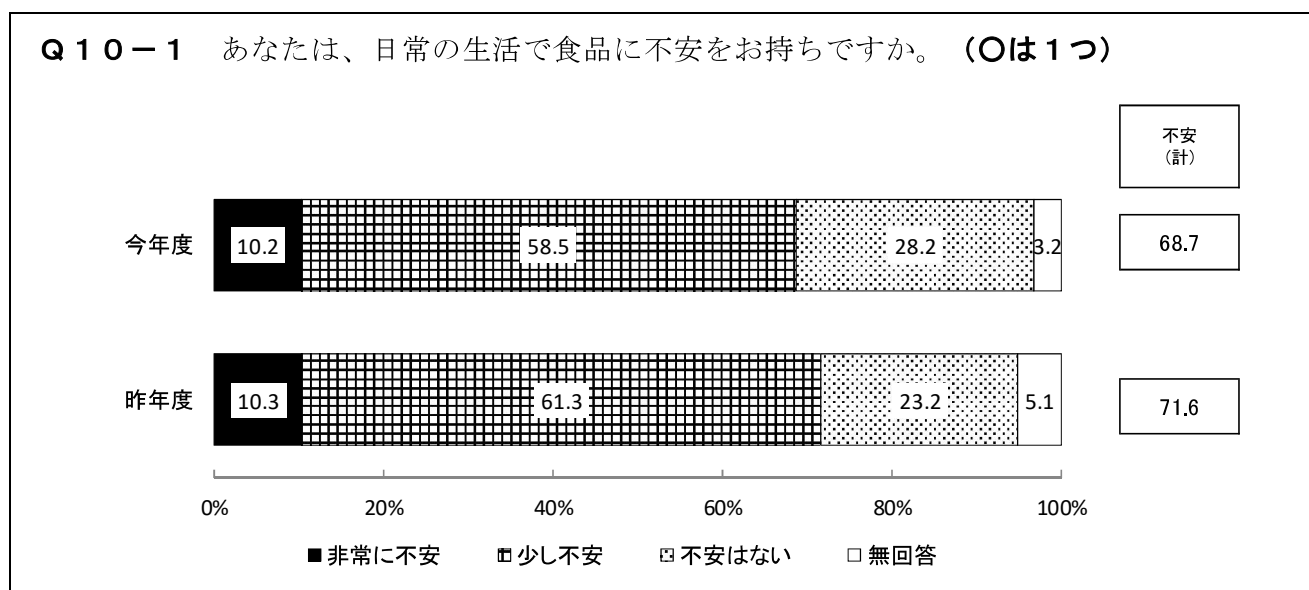
Q9-2 あなたは、人権問題に関する知識や情報を何から得ていますか。（〇はいくつでも）



人権問題に関する知識や情報の収集媒体について、「報道(テレビ・ラジオ・新聞・雑誌)」が 82.2%と最も高く、次いで「インターネットやメールリングリスト、メールマガジン等」が 45.5%、「家族・友人との会話」が 17.8%の順となっている。

10. 食の安心・安全について

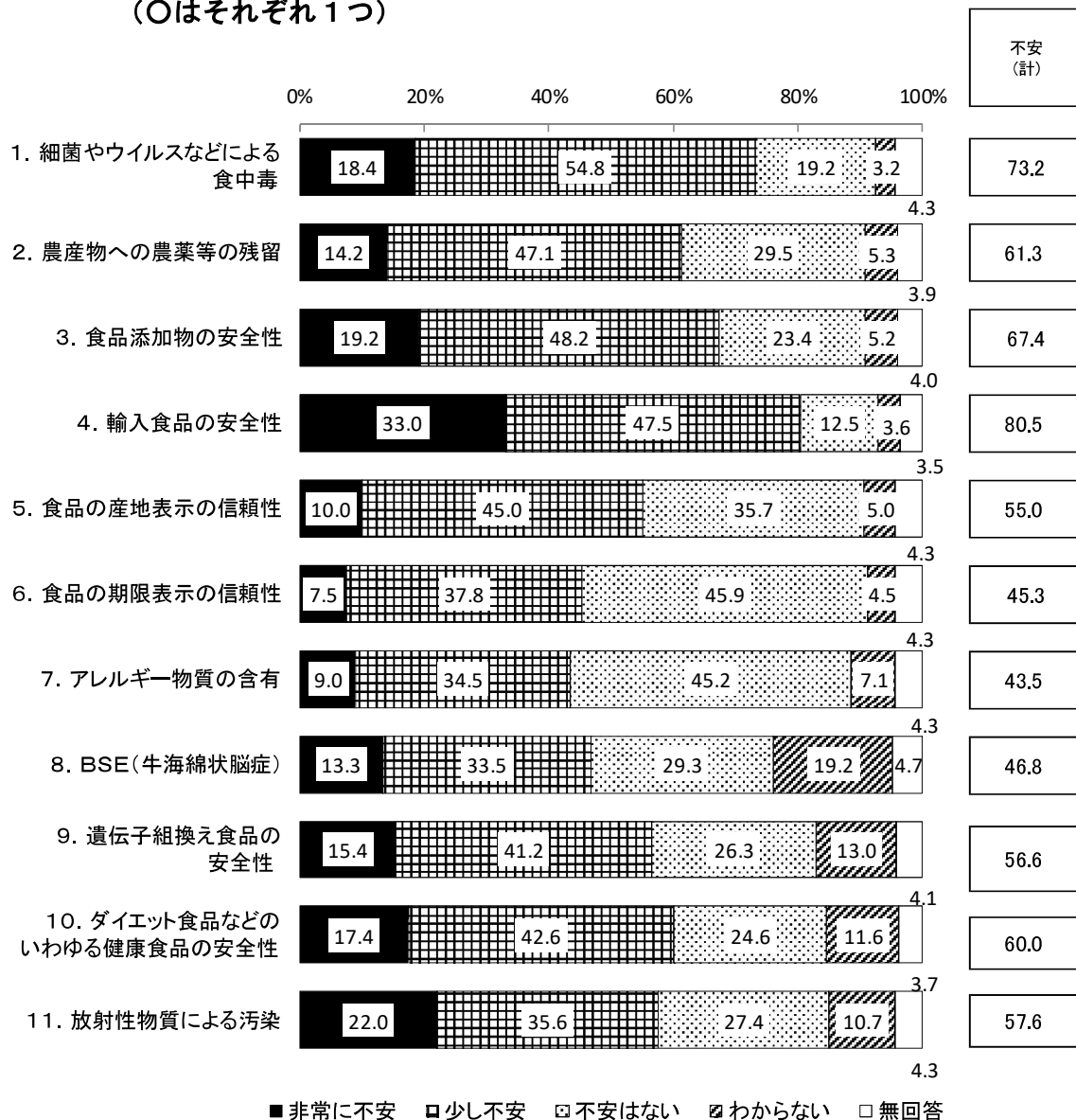
10-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安（計）』は68.7%と7割弱となっている。昨年度と比較すると、『不安（計）』は2.9ポイント低下している。

10-2. 食品について不安なこと

Q10-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
(〇はそれぞれ1つ)

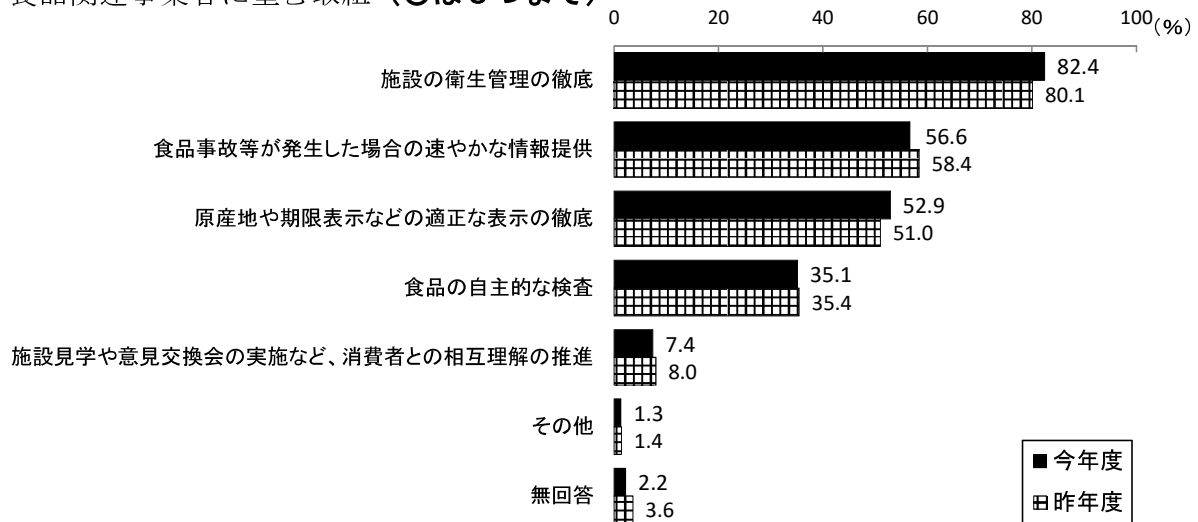


食品について不安なことについて、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』の割合は、「4. 輸入食品の安全性」が80.5%、「1. 細菌やウイルスなどによる食中毒」が73.2%、「3. 食品添加物の安全性」が67.4%、「2. 農産物への農薬等の残留」が61.3%などで高くなっている。

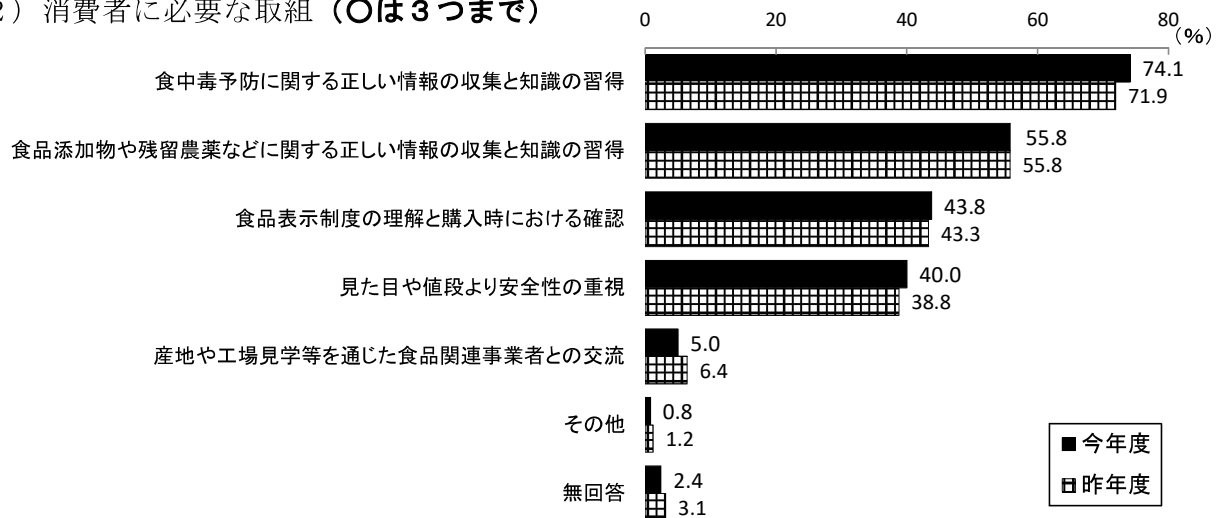
10-3. 県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組

Q10-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

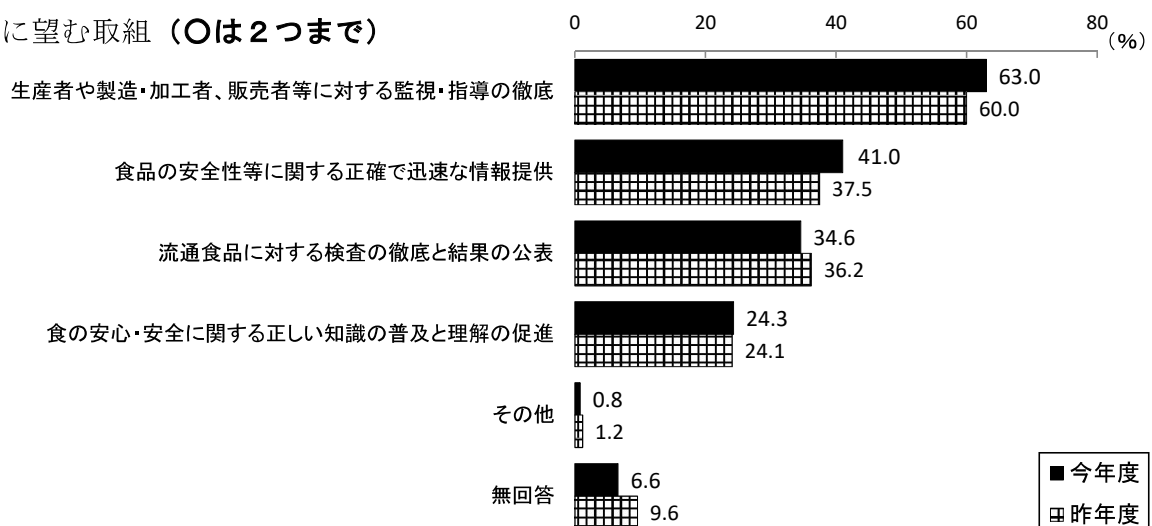
(1) 食品関連事業者に望む取組（○は3つまで）



(2) 消費者に必要な取組（○は3つまで）



(3) 県に望む取組（○は2つまで）



県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組について、「食品関連事業者に望む取組」は、「施設の衛生管理の徹底」が 82.4%と最も高く、次いで「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 56.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「施設の衛生管理の徹底」が 2.3 ポイント上昇している。

「消費者に必要な取組」は、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 74.1%と最も高く、次いで「食品添加物や残留農薬などに関する正しい情報の収集と知識の習得」が 55.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 2.2 ポイント上昇している。

「県に望む取組」は、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が 63.0%と最も高く、次いで「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 41.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 3.5 ポイント、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」3.0 ポイントそれぞれ上昇している。

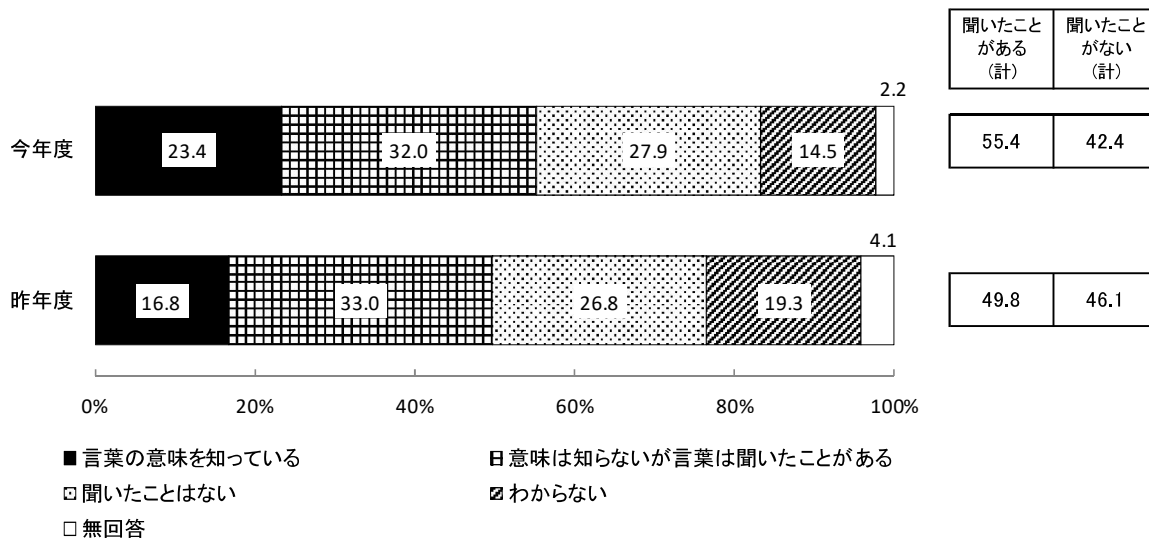
1 1. 生物多様性について

1 1－1. 「生物多様性」の認知状況

Q 1 1－1 あなたは、「生物多様性(※)」の言葉の意味を知っていますか。(○は1つ)

※生物多様性:生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。

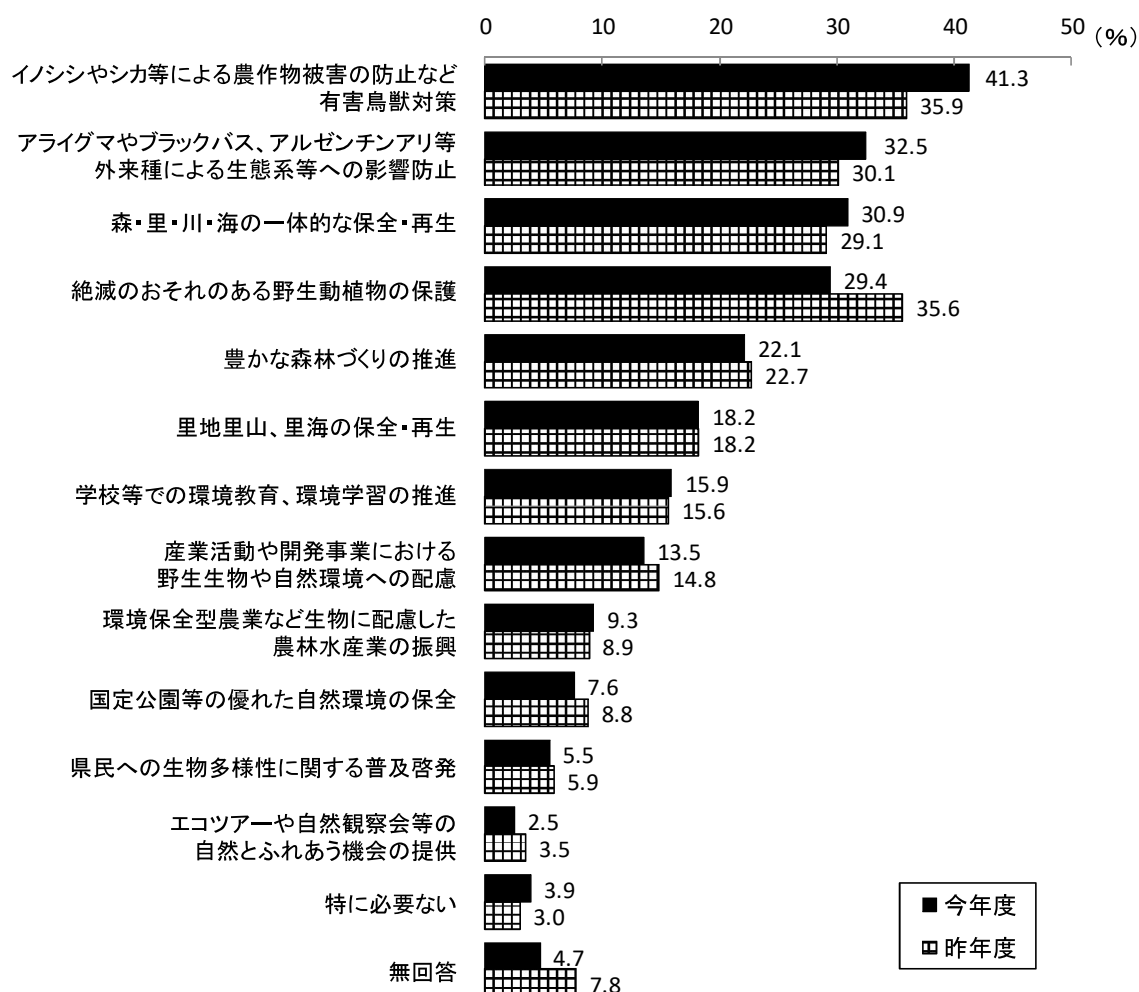
この生物多様性は、私たちの豊かな暮らしに欠かせない多くの自然の恵みをもたらしてくれます。



「生物多様性」の認知状況について、「言葉の意味を知っている」が 23.4%、「意味は知らないが言葉は聞いたことがある」が 32.0%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがある (計)』は 55.4%となっている。また、「聞いたことはない」が 27.9%、「わからない」が 14.5%となっており、2項目を合わせた『聞いたことがない (計)』は 42.4%となっている。昨年度と比較すると、『聞いたことがある (計)』は 5.6 ポイント上昇し、『聞いたことがない (計)』は 3.7 ポイント低下している。

11-2. 生物多様性を守るために必要な取組

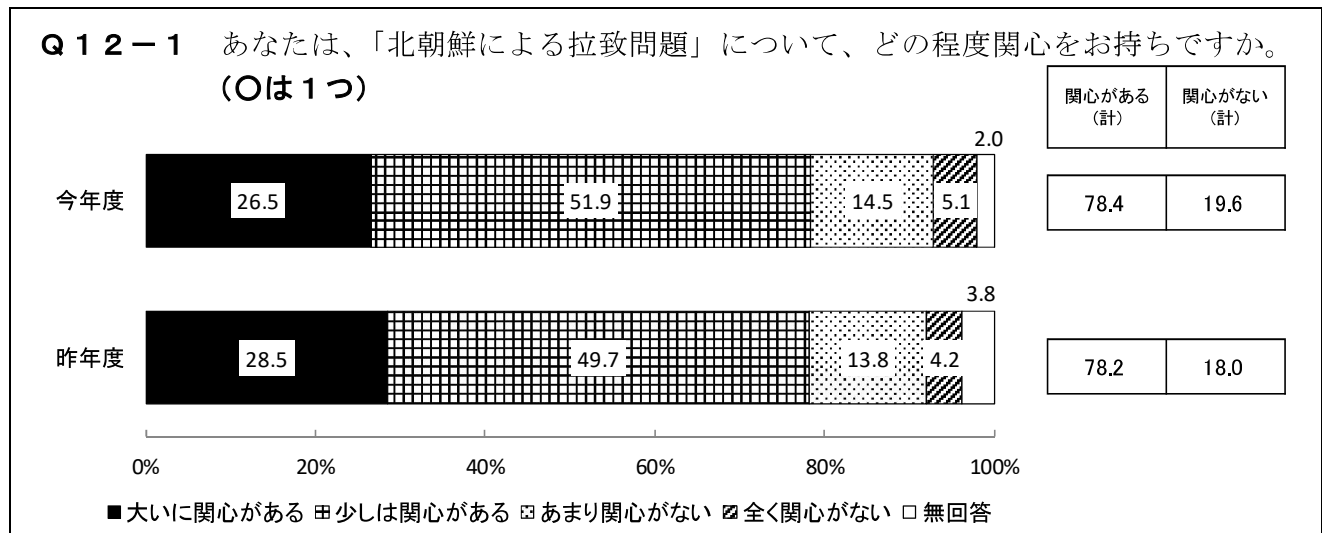
Q 11-2 生物多様性を守っていくために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇は3つまで)



生物多様性を守るために必要な取組について、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が41.3%と最も高く、次いで「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が32.5%、「森・里・川・海の一体的な保全・再生」が30.9%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が29.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「イノシシやシカ等による農作物被害の防止など有害鳥獣対策」が5.4ポイント、「アライグマやブラックバス、アルゼンチンアリ等外来種による生態系等への影響防止」が2.4ポイントそれぞれ上昇し、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」が6.2ポイント低下している。

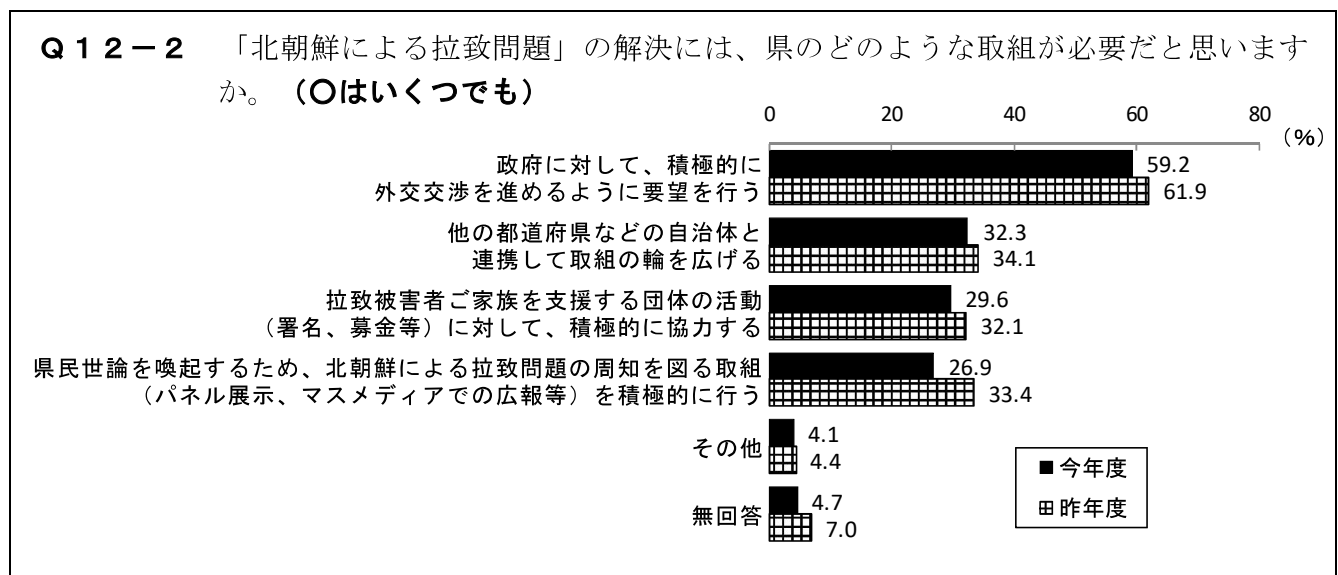
12. 北朝鮮による拉致問題について

12-1. 「拉致問題」についての関心



「北朝鮮による拉致問題」について、「大いに興味がある」と「少しは興味がある」を合わせた『関心がある(計)』が78.4%、「あまり興味がない」と「全く興味がない」を合わせた『関心がない(計)』が19.6%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

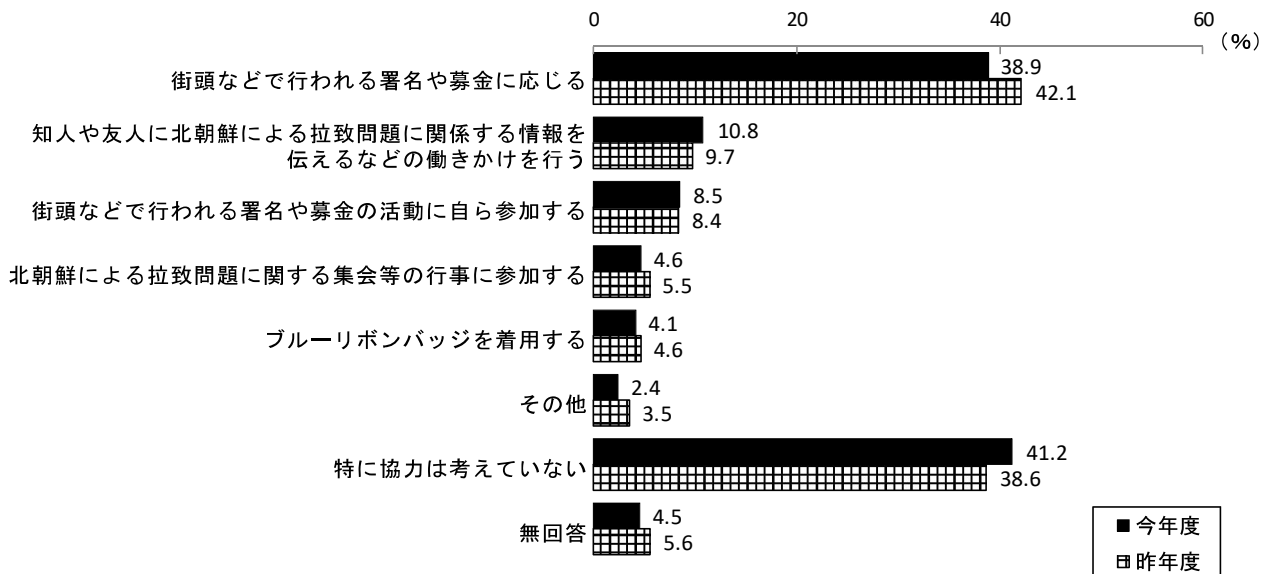
12-2. 「拉致問題」の解決のために必要な取組



「北朝鮮による拉致問題」の解決のために必要な取組について、「政府に対して、積極的に外交交渉を進めるように要望を行う」が59.2%と最も高く、次いで「他の都道府県などの自治体と連携して取組の輪を広げる」が32.3%の順となっている。昨年度と比較すると、「県民世論を喚起するため、北朝鮮による拉致問題の周知を図る取組(パネル展示、マスメディアでの広報等)を積極的に行う」が6.5ポイント低下している。

12-3. 「拉致問題」の解決に向けての今後の協力

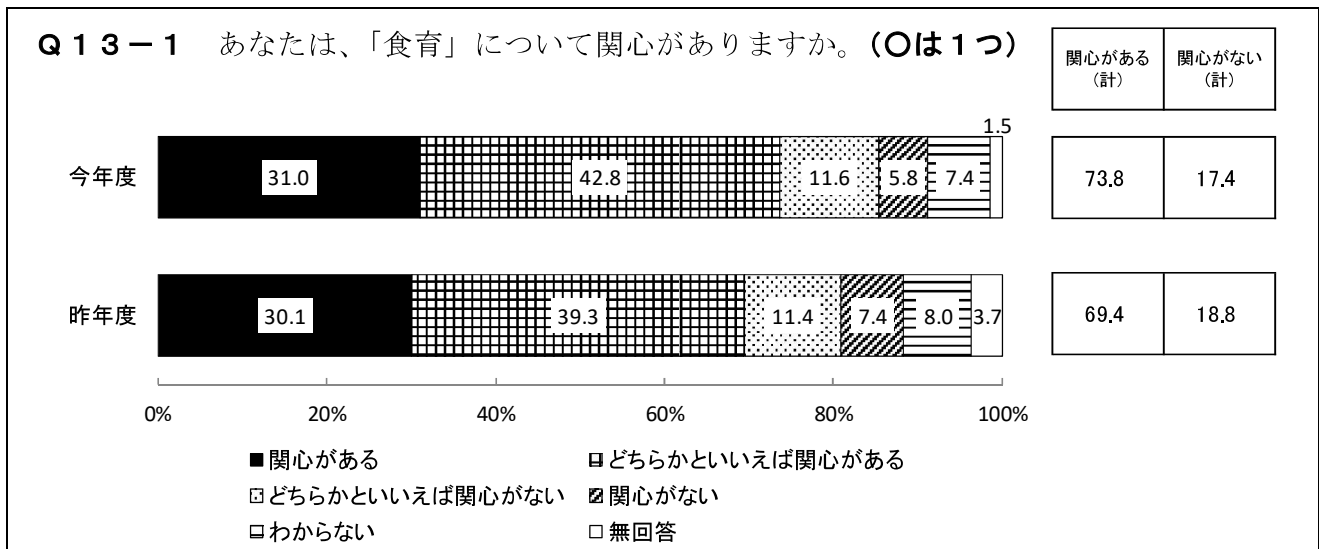
Q12-3 「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けて、あなたは、今後どのように協力していきたいですか。（〇はいくつでも）



「北朝鮮による拉致問題」の解決に向けて今後協力していきたいことについて、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が38.9%と最も高く、次いで「知人や友人に北朝鮮による拉致問題に関する情報を伝えるなどの働きかけを行う」が10.8%、「街頭などで行われる署名や募金の活動に自ら参加する」が8.5%の順となっている。また、「特に協力は考えていない」は41.2%となっている。昨年度と比較すると、「特に協力は考えていない」が2.6ポイント上昇し、「街頭などで行われる署名や募金に応じる」が3.2ポイント低下している。

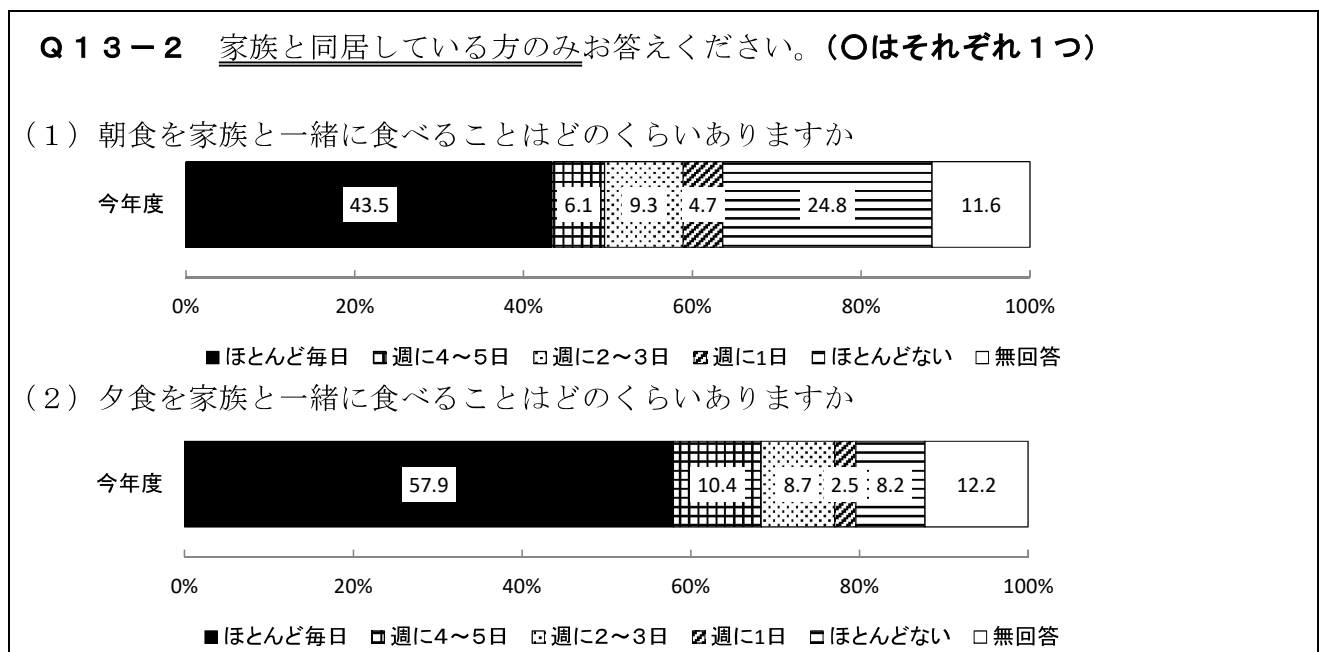
13. 食育について

13-1. 「食育」についての関心



「食育」について、「関心がある」と「どちらかといえば関心がある」を合わせた『関心がある (計)』が 73.8%、「どちらかといえば関心がない」と「関心がない」を合わせた『関心がない (計)』が 17.4%と、関心を持つ人の割合が高くなっている。昨年度と比較すると、『関心がある (計)』は 4.4 ポイント上昇している。

13-2. 家族と一緒に食事をする頻度



家族と一緒に食事をする頻度について、朝食では、「ほとんど毎日」が 43.5%と最も高く、次いで「ほとんどない」が 24.8%の順となっている。

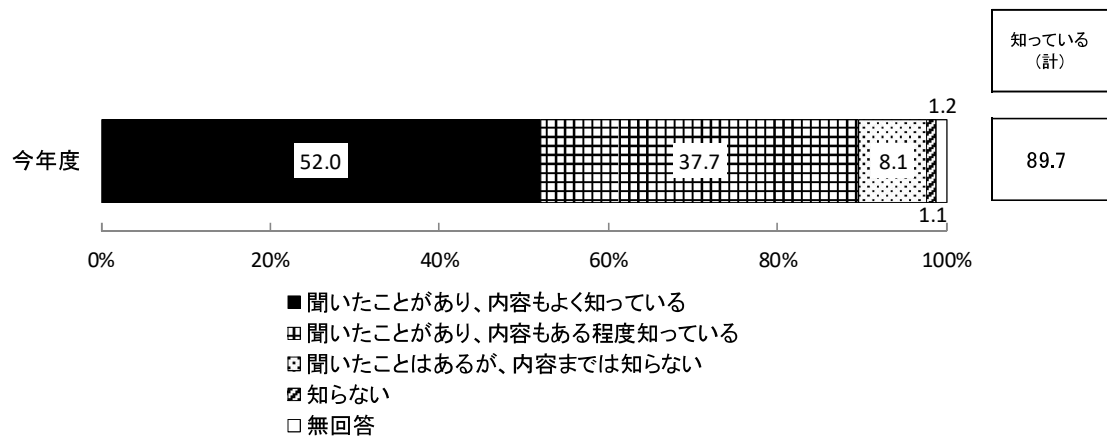
夕食では、「ほとんど毎日」が 57.9%と最も高く、次いで「週に4～5日」が 10.4%の順となっている。

14. ギャンブル等依存症支援について

14-1. 「ギャンブル依存症」の認知度

Q14-1 あなたは、「ギャンブル依存症（※）」という言葉聞いたことがありますか。
（○は1つ）

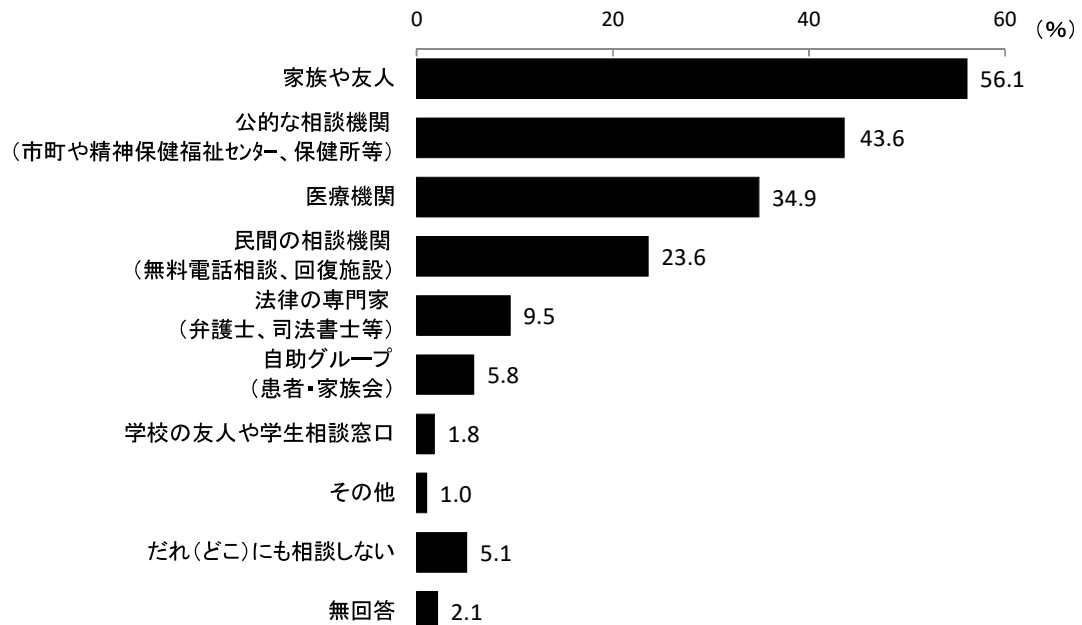
※ギャンブル依存症：ギャンブル等へのめり込むことにより日常生活または社会生活に支障が生じている状態のことです。



「ギャンブル依存症」の認知度について、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」が52.0%、「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」が37.7%となっており、2項目を合わせた『知っている（計）』は89.7%と約9割を占めている。

14-2. ギャンブルで困りごとを抱えた際の相談先

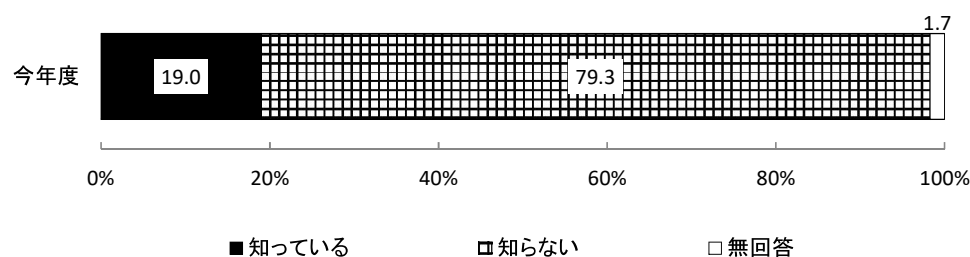
Q 14-2 もし、あなた自身や、あなたの重要な関係者（家族や友人、同僚、交際相手など）がギャンブルのことで困りごとを抱えたら、だれ（どこ）に相談しようと思いますか。あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。（○はいくつでも）



ギャンブルで困りごとを抱えた際の相談先について、「家族や友人」が 56.1%と最も高く、次いで「公的な相談機関」が 43.6%、「医療機関」が 34.9%の順となっている。

14-3. 県の精神保健福祉センターや保健所が、ギャンブル等の相談窓口であることの認知度

Q 14-3 県の精神保健福祉センターや保健所が、ギャンブル等の問題に悩んでいる人やその家族に対する相談窓口であることを知っていますか。（○は1つ）



県の精神保健福祉センターや保健所が、ギャンブル等の相談窓口であることの認知度について、「知っている」が 19.0%、「知らない」が 79.3%と、知らない人の割合が高くなっている。

15. 薬局・薬剤師や医薬品に関する取組について

県では、以下の薬局・薬剤師や医薬品に関する取組を行っています。

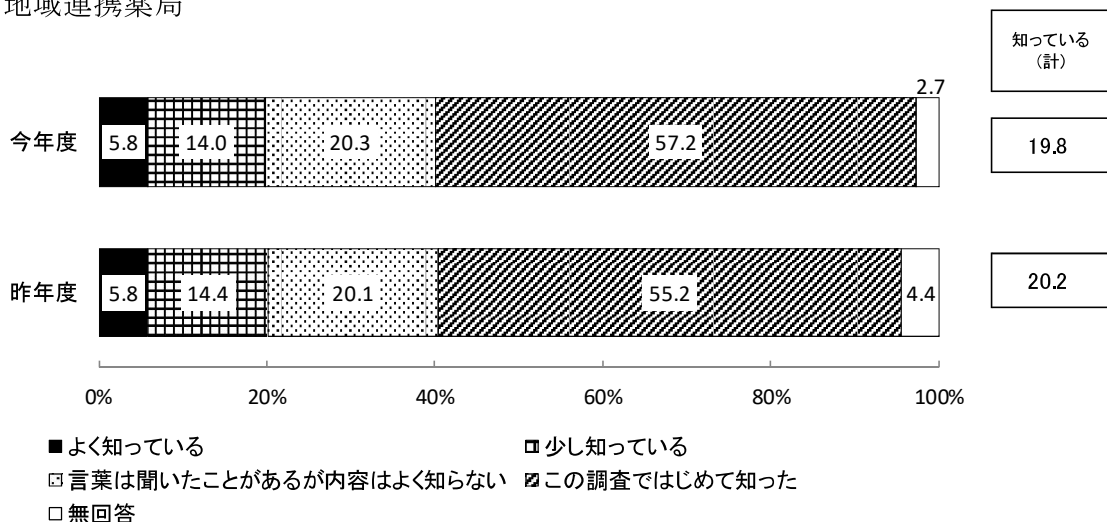
- 医療や介護の関係施設と連携しながら患者さんを支える「地域連携薬局」の普及と周知
- 薬以外の健康に関する相談にも応じる「健康サポート薬局」の普及と周知
- 地域において薬学的な健康サポート(※)を行う「山口県健康エキスパート薬剤師」の活動の支援
- 県民等が、「ジェネリック医薬品」や「バイオ後続品（バイオシミラー）」に対する理解を深め、安心して使用できる環境の整備

※薬学的な健康サポート：身近な薬局・薬剤師が、学術的な知識、経験などを活かした相談対応、県民が自ら行う健康管理への助言、受診勧奨などの総合的な支援を行うことです。

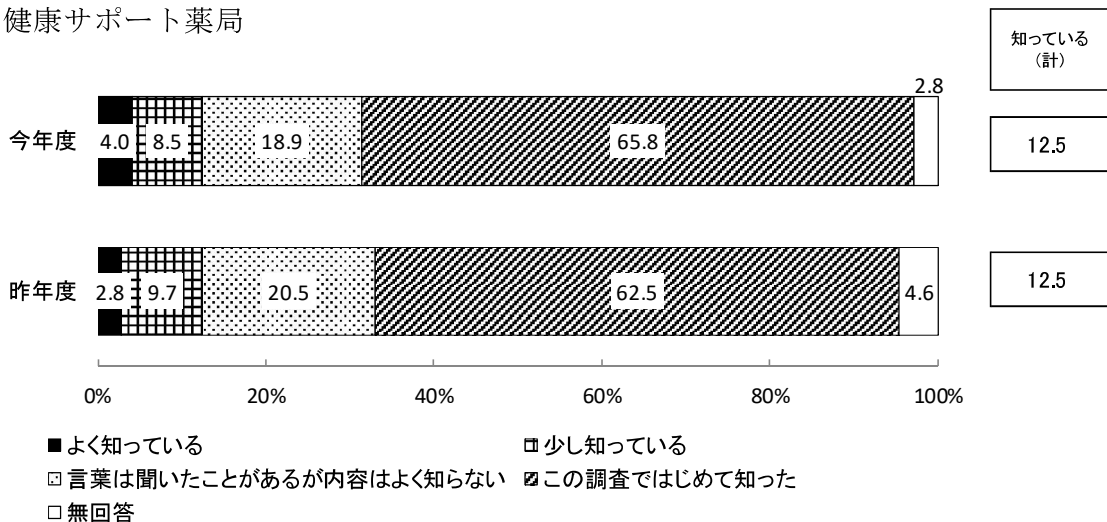
15-1. 薬局・薬剤師や医薬品に関する取組の認知度

Q15-1 上記の言葉の意味を知っていますか。（○はそれぞれ1つ）

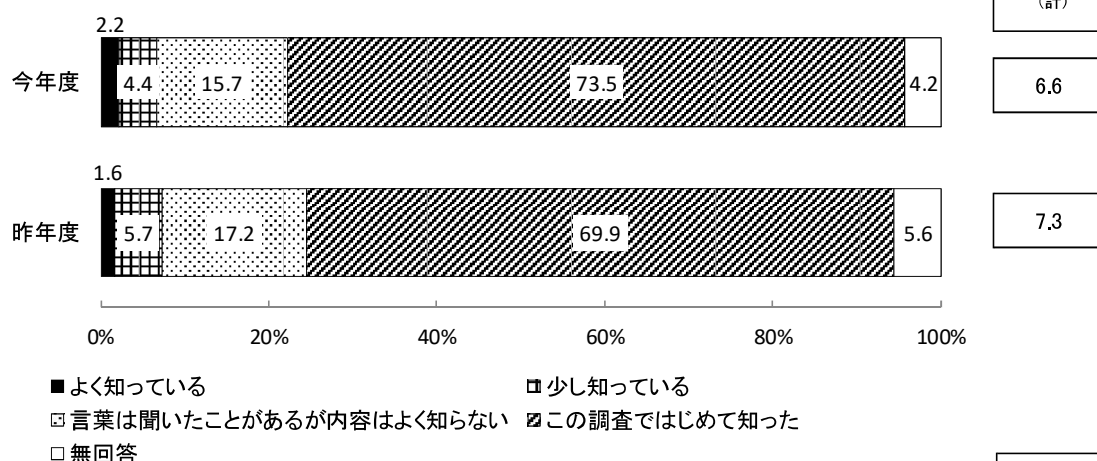
(1) 地域連携薬局



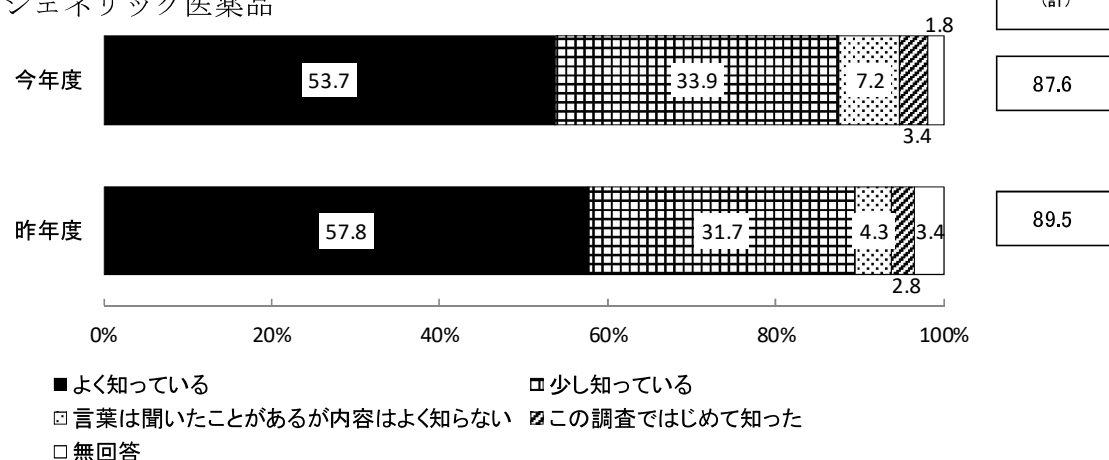
(2) 健康サポート薬局



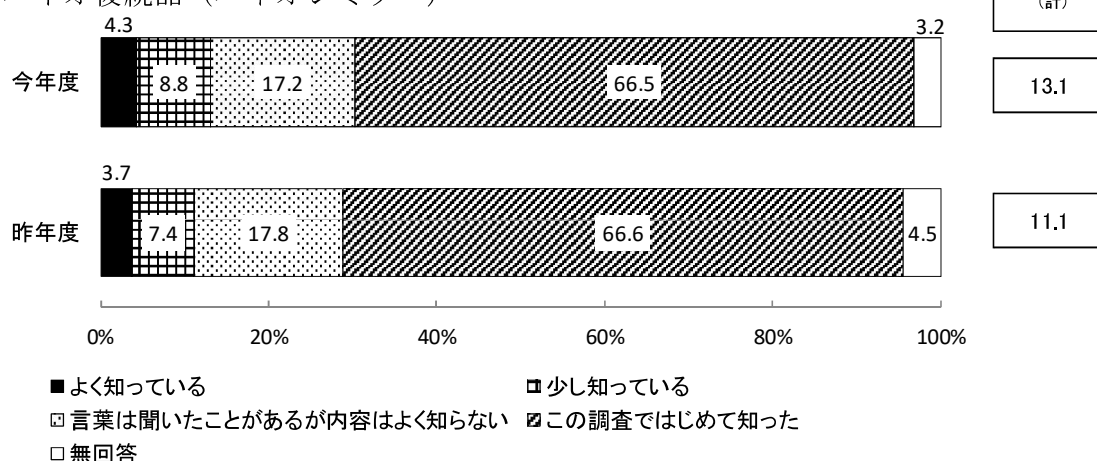
(3) 山口県健康エキスパート薬剤師



(4) ジェネリック医薬品



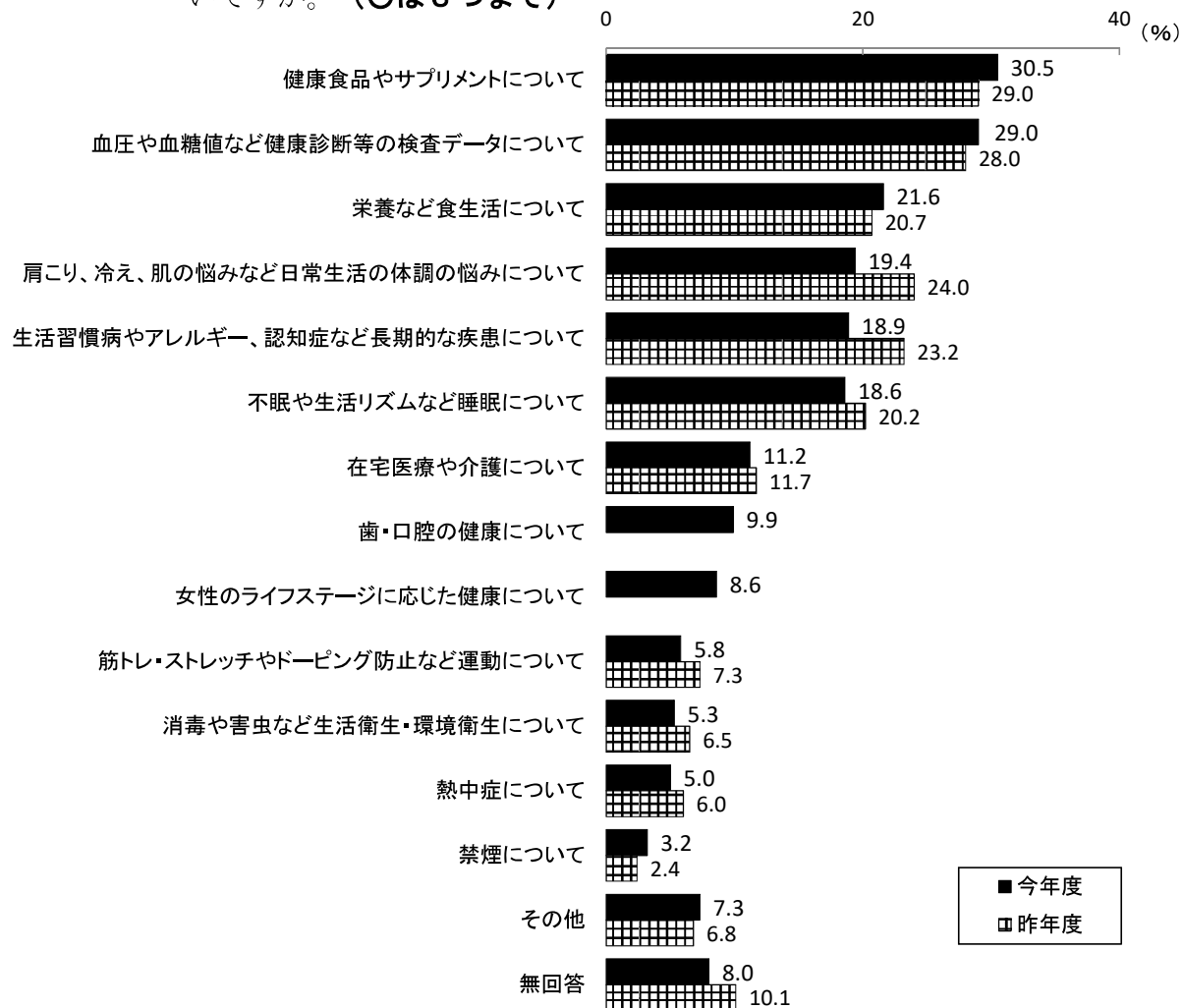
(5) バイオ後続品 (バイオシミラー)



薬局・薬剤師に関する取組の認知状況について、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている (計)』の割合は、「4. ジェネリック医薬品」が87.6%と最も高く、次いで「1. 地域連携薬局」が19.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「5. バイオ後続品 (バイオシミラー)」が2.0ポイント上昇している。一方、「この調査ではじめて知った」の割合は、「3. 山口県健康エキスパート薬剤師」が73.5%と最も高く、次いで「5. バイオ後続品 (バイオシミラー)」が66.5%、「2. 健康サポート薬局」が65.8%となっている。昨年度と比較すると、「3. 山口県健康エキスパート薬剤師」が3.6ポイント、「2. 健康サポート薬局」が3.3ポイントそれぞれ上昇している。

15-2. 健康に関して、薬以外のことで相談したい内容

Q15-2 薬剤師・薬局に、健康等に関して、薬以外のことでどのような内容を相談したいですか。（〇は3つまで）



※選択肢「歯・口腔の健康について」、「女性のライフステージに応じた健康について」は今年度新設のため、昨年度のデータはありません。

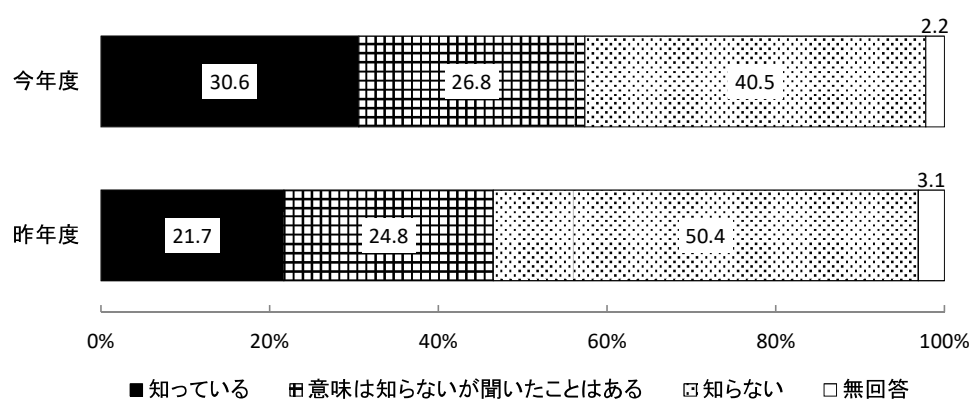
健康に関して相談できると良いと思う内容について、「健康食品やサプリメントについて」が 30.5%と最も高く、次いで「血圧や血糖値など健康診断等の検査データについて」が 29.0%、「栄養など食生活について」が 21.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「肩こり、冷え、肌の悩みなど日常生活の体調の悩みについて」が 4.6 ポイント、「生活習慣病やアレルギー、認知症など長期的な疾患について」が 4.3 ポイントそれぞれ低下している。

16. 多文化共生について

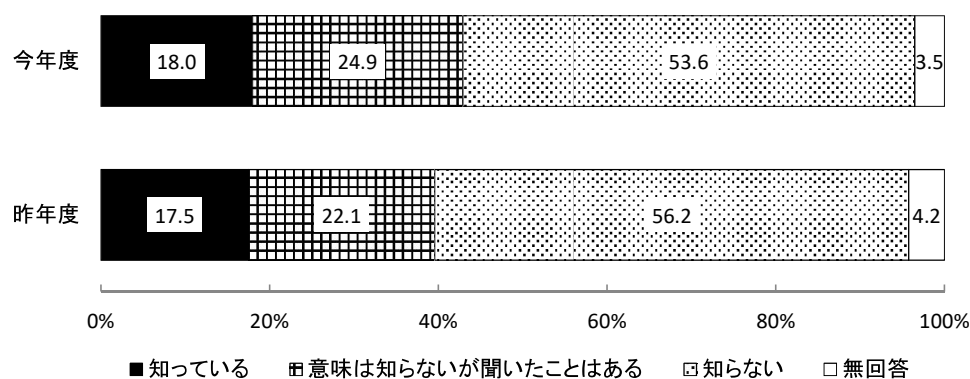
16-1. 「多文化共生」「やさしい日本語」の認知度

Q16-1 あなたは、「多文化共生」（地域住民と外国人が互いを認め合い共に暮らしていくこと）及び「やさしい日本語」（普段使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のこと）という言葉を知っていますか。
（〇はそれぞれ1つ）

（1）「多文化共生」の認知度



（2）「やさしい日本語」の認知度

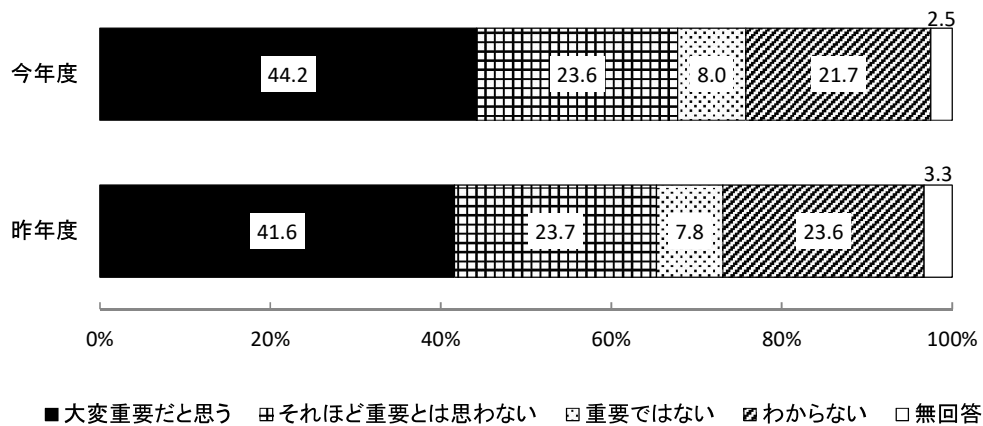


多文化共生の認知度について、「知っている」が 30.6%、「意味は知らないが聞いたことはある」が 26.8%、「知らない」が 40.5%となっている。昨年度と比較すると、「知っている」は 8.9 ポイント、「意味は知らないが聞いたことはある」は 2.0 ポイントそれぞれ上昇し、「知らない」は 9.9 ポイント低下している。

やさしい日本語の認知度について、「知っている」が 18.0%、「意味は知らないが聞いたことはある」が 24.9%、「知らない」が 53.6%となっている。昨年度と比較すると、「意味は知らないが聞いたことはある」は 2.8 ポイント上昇し、「知らない」は 2.6 ポイント低下している。

16-2. 多文化共生の推進

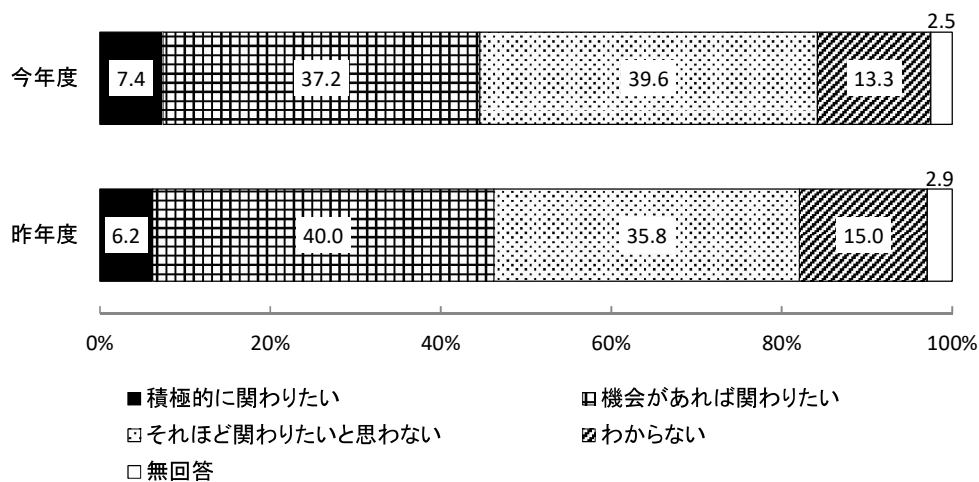
Q16-2 あなたは、多文化共生の推進について、どう思いますか。（○は1つ）



多文化共生の推進について、「大変重要だと思う」が44.2%と最も高く、次いで「それほど重要とは思わない」が23.6%、「わからない」が21.7%、「重要ではない」が8.0%の順となっている。昨年度と比較すると、「大変重要だと思う」が2.6ポイント上昇している。

16-3. 日常生活で外国人と関わることについて

Q16-3 日常生活において、あなた自身が外国人と関わることについてどう思いますか。（○は1つ）



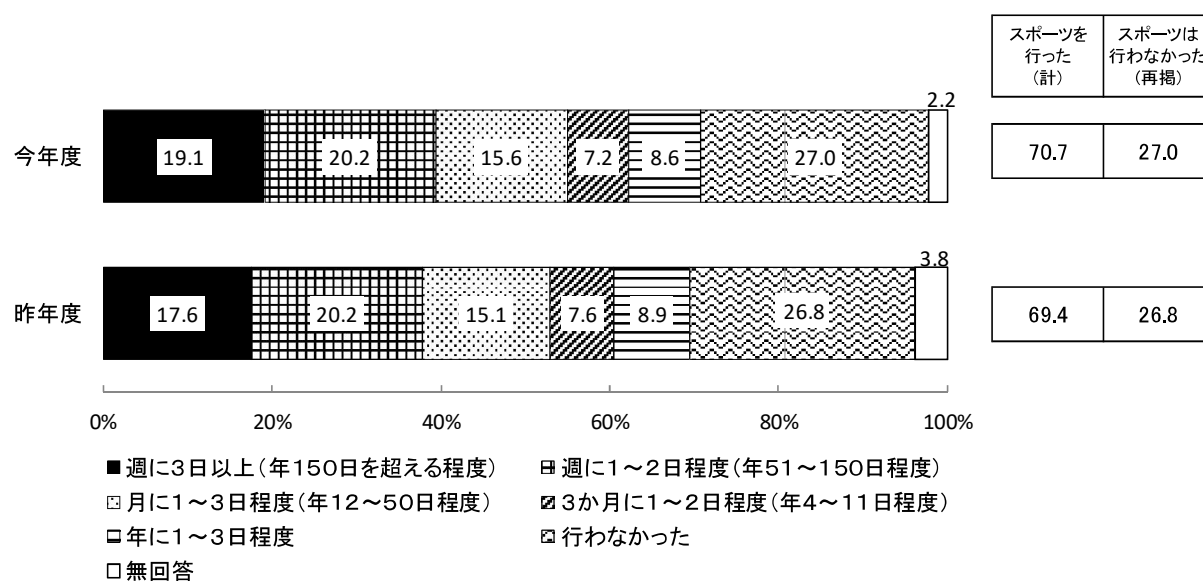
日常生活で外国人と関わることについて、「それほど関わりたいと思わない」が39.6%と最も高く、次いで「機会があれば関わりたい」が37.2%、「わからない」が13.3%、「積極的に関わりたい」が7.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「それほど関わりたいと思わない」が3.8ポイント上昇し、「機会があれば関わりたい」が2.8ポイント低下している。

17. 運動・スポーツの実施状況について

17-1. 「運動・スポーツ」の実施頻度

Q17-1 あなたは、過去1年間に、どの程度、「運動・スポーツ」を行いましたか。
(〇は1つ)

※運動・スポーツ：陸上競技・水泳・球技・武道等の他、ウインタースポーツ・マリンスポーツ・サイクリング・山登り・キャンプ等のアウトドアスポーツ、グラウンドゴルフ・ソフトバレー等のレクリエーションスポーツ、モルック・ボッチャ・ピッチボール等のニュースポーツ、3on3・BMX・スケートボード・ブレイキン等のアーバンスポーツ、ウォーキングや軽い体操、運動を目的とした自転車や徒歩での通勤・通学等を含みます。

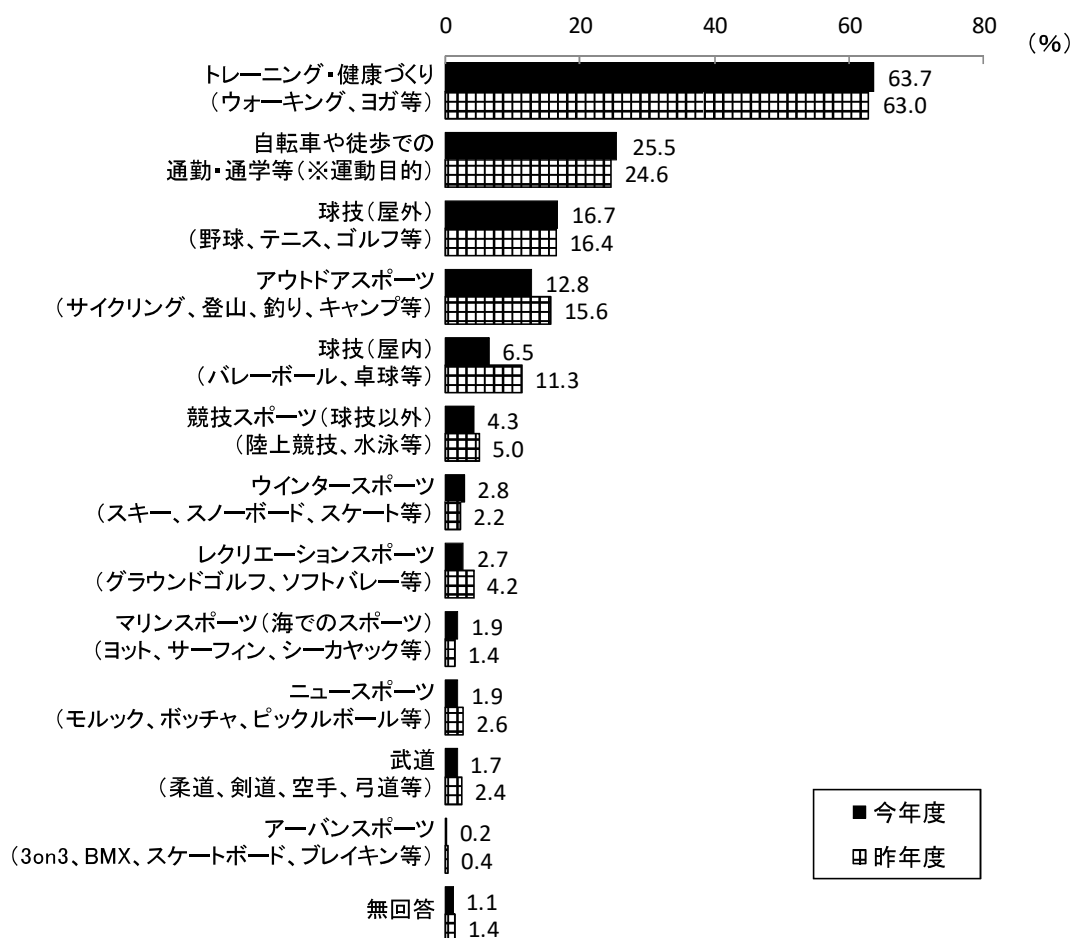


運動・スポーツの実施頻度について、「行わなかった」が27.0%となっている。行った頻度では、「週に1~2日程度(年51~150日程度)」が20.2%と最も高く、次いで「週に3日以上(年150日を超える程度)」が19.1%、「月に1~3日程度(年12~50日程度)」が15.6%となっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

17-2. 行った「運動・スポーツ」

【Q17-1で「1～5. 行った」と回答した方に】 (n=1,009)

Q17-2 どのような「運動・スポーツ」を行いましたか。(〇はいくつでも)

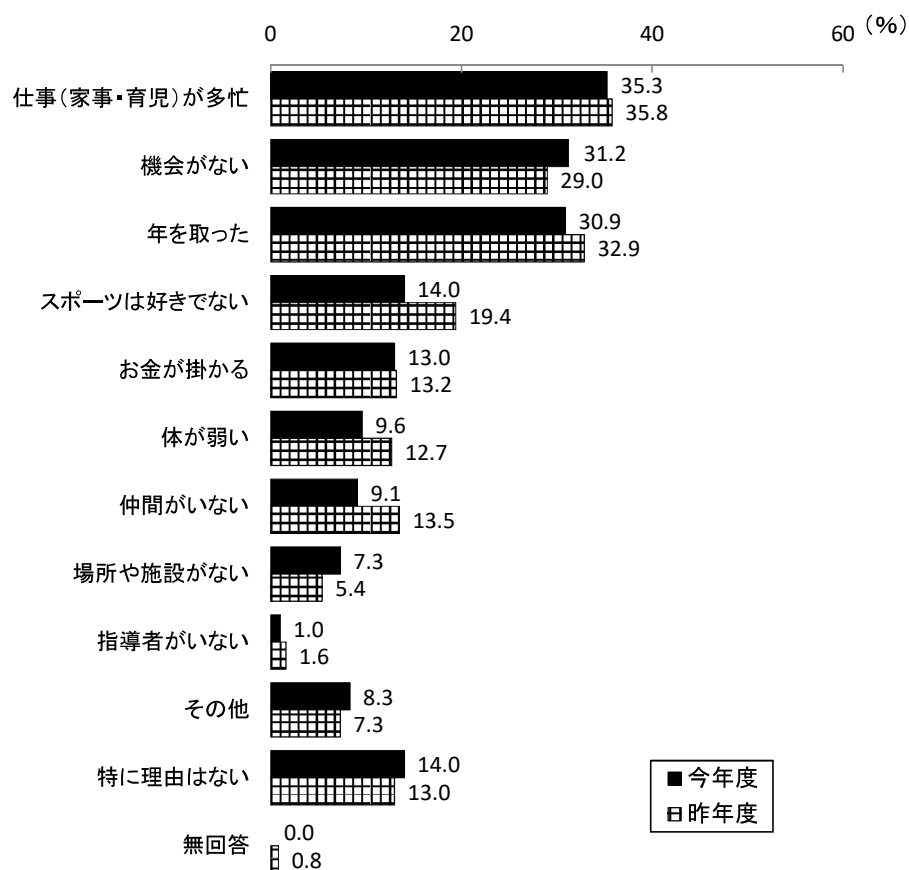


Q17-1で「行った」と回答した方に、どのような運動・スポーツを行ったか質問すると、「トレーニング・健康づくり(ウォーキング・ヨガ等)」が63.7%と最も高く、次いで「自転車や徒歩での通勤・通学等(※運動目的)」が25.5%、「球技(屋外)(野球、テニス、ゴルフ等)」が16.7%、「アウトドアスポーツ(サイクリング、登山、釣り、キャンプ等)」が12.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「トレーニング・健康づくり(ウォーキング・ヨガ等)」及び「自転車や徒歩での通勤・通学等(※運動目的)」が微増した一方、「球技(屋内)(バレーボール、卓球等)」が4.8ポイント、「アウトドアスポーツ(サイクリング、登山、釣り、キャンプ等)」が2.8ポイントそれぞれ低下している。

17-3. 「運動・スポーツ」を行わなかった理由

【Q17-1で「6. 行わなかった」と回答した方に】 (n=385)

Q17-3 「運動・スポーツ」を行わなかった理由は何ですか。(〇はいくつでも)

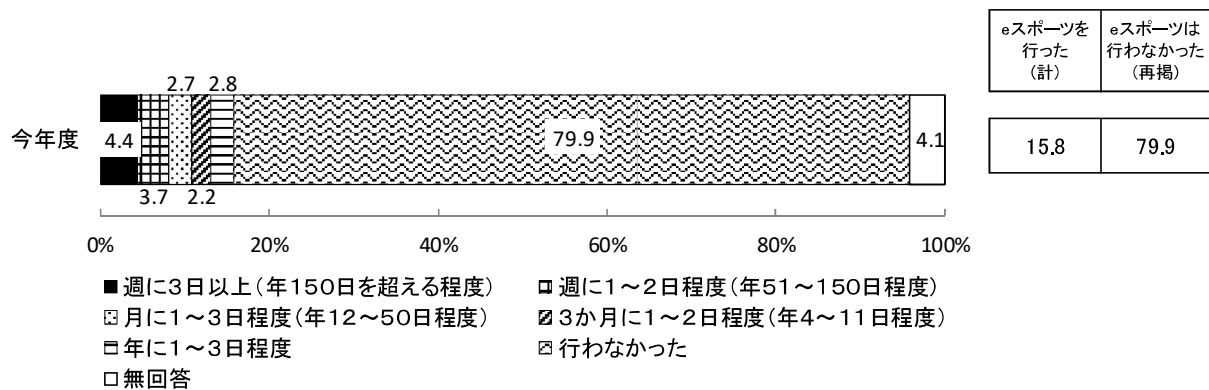


Q17-1で「行わなかった」と回答した方に、運動・スポーツを行わなかった理由について質問すると、「仕事（家事・育児）が多忙」が35.3%と最も高く、次いで「機会がない」が31.2%、「年を取った」が30.9%の順となっている。また、「特に理由はない」は14.0%となっている。昨年度と比較すると、「機会がない」が2.2ポイント上昇し、「スポーツは好きでない」が5.4ポイント、「仲間がいない」が4.4ポイントそれぞれ低下している。

17-4. 「eスポーツ」の実施頻度

Q17-4 あなたは、過去1年間に、どの程度、「eスポーツ(※)」を行いましたか。
(○は1つ)

※ eスポーツ: PCやゲーム機、スマホなどを使った、対戦をスポーツ競技として捉える活動で、
対戦に向けた一人での練習も含みます。

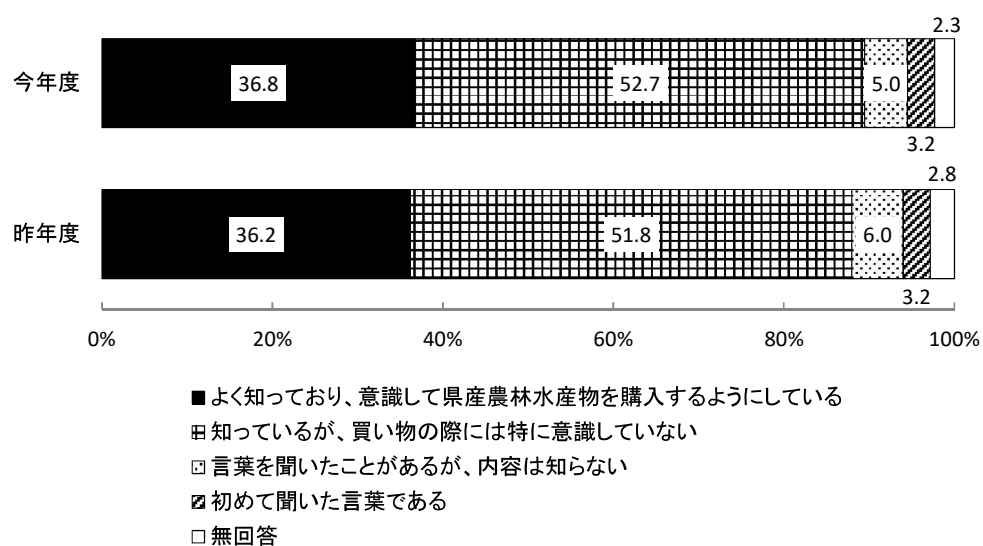


「eスポーツ」の実施頻度について、「行わなかった」が79.9%と約8割を占めている。行った頻度は、「週に3日以上(年150日を超える程度)」が4.4%と最も高く、次いで「週に1～2日程度(年51～150日程度)」が3.7%、「年に1～3日程度」が2.8%、「月に1～3日程度(年12～50日程度)」が2.7%、「3か月に1～2日程度(年4～11日程度)」が2.2%の順となっている。

18. 地産・地消の推進について

18-1. 「地産・地消」の認知状況

Q18 県内で生産された農林水産物を県内で消費する「地産・地消」についてご存じですか。
(○は1つ)

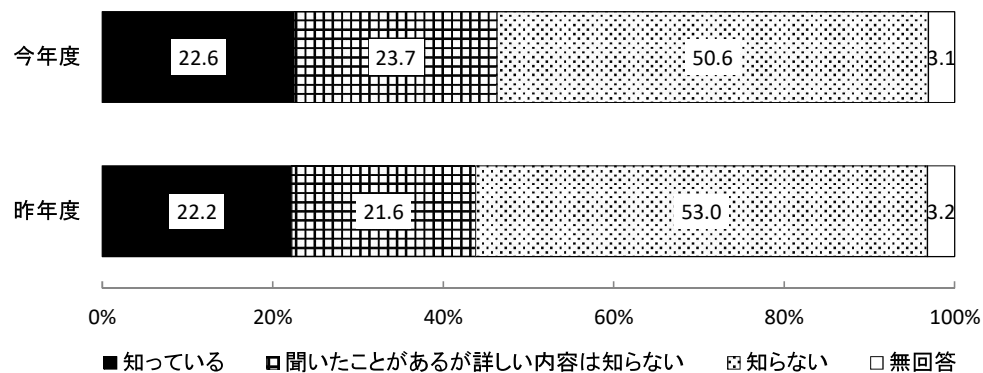


「地産・地消」の認知状況について、「よく知っており、意識して県産農林水産物を購入するようにしている」が36.8%、「知っているが、買い物の際には特に意識していない」が52.7%、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」が5.0%、「初めて聞いた言葉である」が3.2%となっている。昨年度と比較して目立った差異はみられない。

19. 「やまぐち森林づくり県民税」について

19-1. 「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況

Q19-1 山口県では、荒廃した森林の再生を図るため、平成17年度から「やまぐち森林づくり県民税」を導入しました。あなたは、この「やまぐち森林づくり県民税」をご存じですか。（〇は1つ）

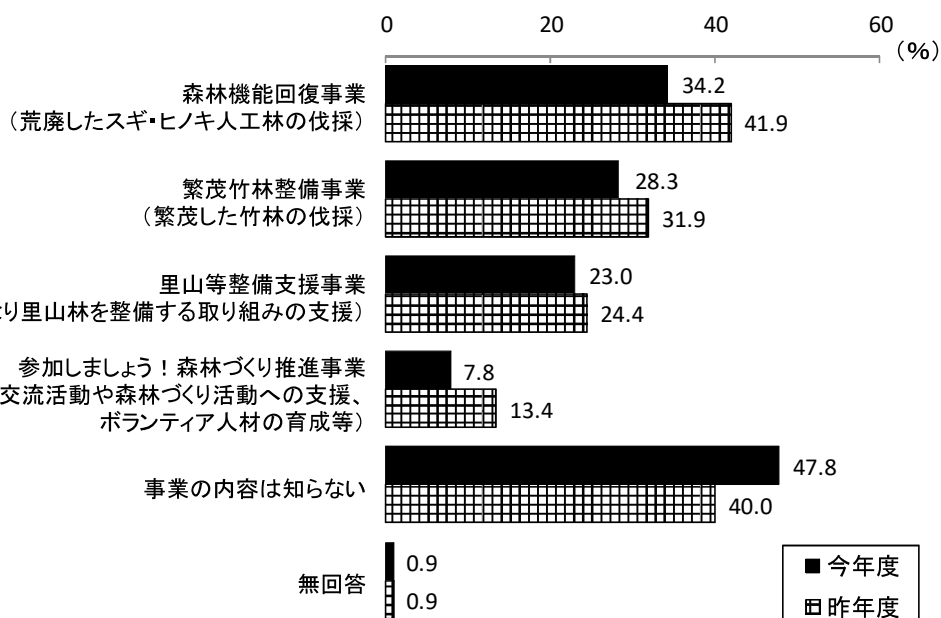


「やまぐち森林づくり県民税」の認知状況について、「知っている」が22.6%、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が23.7%、「知らない」が50.6%となっている。昨年度と比較すると、「聞いたことがあるが詳しい内容は知らない」が2.1ポイント上昇し、「知らない」が2.4ポイント低下している。

19-2. 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業の内容

【Q19-1で「1. 知っている」と回答した方に】 (n=322)

Q19-2 「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、どの事業の内容をご存じですか。(〇はいくつでも)

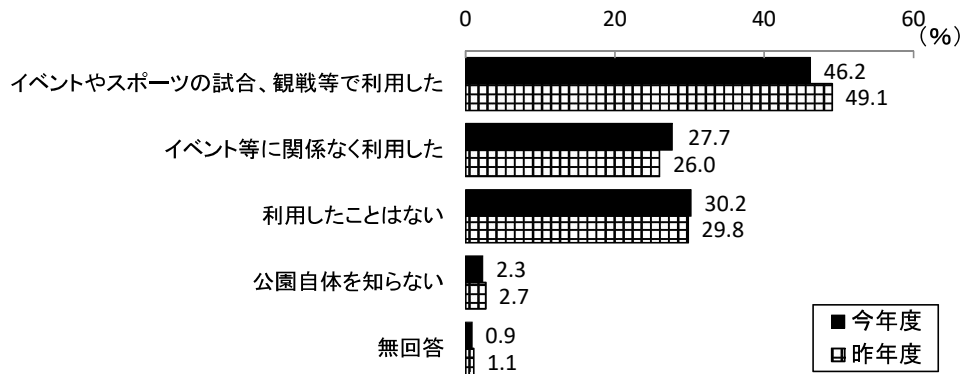


Q19-1で「やまぐち森林づくり県民税」を「知っている」と回答された方に、「やまぐち森林づくり県民税」で行っている事業のうち、知っている内容について質問すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の伐採）」が34.2%と最も高く、次いで「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が28.3%、「里山等整備支援事業（市町・地域住民などが主体となり里山林を整備する取り組みの支援）」が23.0%、「参加しましょう！森林づくり推進事業（地域での里山活動団体の交流活動や森林づくり活動への支援、ボランティア人材の育成等）」が7.8%の順となっている。昨年度と比較すると、「森林機能回復事業（荒廃したスギ・ヒノキ人工林の伐採）」が7.7ポイント、「参加しましょう！森林づくり推進事業（地域での里山活動団体の交流活動や森林づくり活動への支援、ボランティア人材の育成等）」が5.6ポイント、「繁茂竹林整備事業（繁茂した竹林の伐採）」が3.6ポイントそれぞれ低下している。また、「事業の内容は知らない」は47.8%となっており、昨年度より7.8ポイント上昇している。

20. 山口きらら博記念公園について

20-1. 山口きらら博記念公園の利用状況

Q20 あなたは、山口きらら博記念公園を利用されたことがありますか。(〇はいくつでも)



山口きらら博記念公園の利用状況について、「イベントやスポーツの試合、観戦等で利用した」が46.2%、「イベント等に関係なく利用した」が27.7%となっている。一方で、「利用したことはない」は30.2%、「公園自体を知らない」は2.3%となっている。昨年度と比較すると、「イベントやスポーツの試合、観戦等で利用した」が2.9ポイント低下している。